

平成24年度事業報告

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

はじめに

当財団は、横浜市との連携のもと、横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保管および公開を行うとともに、歴史や文化財に関する普及啓発を行い、先人たちの歩みや積み上げてきた文化を市民共有のものとし、さらに次世代へ継承していくことで、ふるさと意識の醸成及び市民文化の発展に寄与することを目的としています。

平成24年度は、平成23年6月1日に公益財団法人へ移行した2年目であり、また文化財施設5施設の指定管理制度の適用を受けてから第2期2年目でもあります。

今年度も、事業計画書、指定管理提案書に基づき、多くの市民の皆様方に親しんでいた様々な事業を展開してきました。とりわけ、連携事業として実施した、歴史博物館と開港資料館での「生麦事件」をテーマとする企画展、「インド展」でのユーラシア文化館と開港資料館の取り組み、昭和期をテーマとする調査研究など、施設の枠を超え、財団の組織力を生かした事業を実施することができました。このような取り組みは、去年の組織再編による組織強化を基盤とした地道な取り組みが、着実な成果を上げつつあることを示しています。

実施事業

法人事業

I 財団本部事業

公益事業

I 埋蔵文化財センター事業

II 市史資料室事業

III 史跡等管理事業

IV 歴史博物館事業

V 開港資料館事業

VI 都市発展記念館事業

VII ユーラシア文化館事業

VIII 三殿台考古館事業

収益事業

I 歴史博物館収益事業

II 開港資料館収益事業

III 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業

(注) なお、新規、追加、さらには重点的に取り組んだ事業については、「事業内容」欄等をゴシック文字で表記しています。

法 人 事 業

I 財団本部事業

1 財団本部事業

事業調整、諸会議の運営、規則整備等を実施し、円滑な組織運営を図りました。また、公益財団法人として、理事会・評議員会の開催、神奈川県への報告等を適正に執行いたしました。

	事業区分	事業内容
1	財団管理施設の 事業調整	(1) 諸会議の運営 ①役員会 月2回 ②経営会議 2回 ③企画会議 月1回 ④管理職会議 月1回 ⑤課長会 月2回程度 ⑥コンプライアンス推進委員会 2回 ⑦企画展合評会 2回 ⑧資料収集審査委員会 1回 <主な検討項目> ①理事会について～理事会の議題等の検討 ②コンプライアンスについて～個人情報取扱事務について ③企画展について～平成24年度開催企画展の評価、平成25年度開催企画展の報告 ④「武家の古都・鎌倉」世界遺産登録推進事業についての調整 ⑤企画展合評会の検討・開催 ⑥超勤命令の適正化について～超勤手続きの適正化、休日出勤に伴う振替の徹底化 ⑦研修について～研修報告、共有化
2	理事会・評議員会 の開催	(1) 理事会の開催 年4回 議案検討・確定、招集、開催、議事録作成 (2) 評議員会の開催 年2回 議案検討・確定、招集、開催、議事録作成
3	財団人事・労務	(1) 職員の採用・退職事務 (2) 職員給与手当計算・支給、給与システムの移行 (3) 社会保険、所得税、住民税の控除・納付 (4) 定期健康診断の実施 (5) 労災申請等 (6) 職員メンタルヘルスの支援

4	財務の管理	(1) 予算管理、全体調整 (2) 経理システムの適正な運用 (3) 総務課事業の予算執行、現金管理 (4) 業者選定委員会の開催、入札 (5) 「寄付要綱」の検討
5	研修計画の作成・実施	(1) 管理職研修の実施 (2) 外部研修への参加調整
6	所管局への報告・調整	(1) 指定管理報告提出(月次、四半期、年度) (2) 外郭団体業務監察等の対応
7	防災対策	(1) 防災計画の見直し (2) 防災訓練の実施 (3) 帰宅困難者一時滞在施設の協力対応
8	共同広報の実施、メルマガの配信	(1) 財団ホームページの管理 情報公開項目の更新等 (2) メルマガ「よこはま歴史かわら版」配信 月1回および臨時号
9	エデュケーター事業	(1) 学校による博物館利用の促進 ①小・中・高・特別支援学校校長会・市及び各区社会科研究会への説明 ②各館での見学時のガイダンス、体験指導「土器づくり」への協力 ③訪問授業「4年吉田新田関係」「3年昔調べ関係」の実施 ④教員のための学習会での説明 「市教育委員会主催の学習会」「財団主催の学習会」 (2) 教育委員会による教員研修の総合調整 ①横浜教師塾研修会 ②市社会科及び各区社会科研究会主催の研修会 ③小学校においての研修会 (3) 「博物館利用検討会」「中学校教材開発研究会」運営 博物館を利用した学習指導事例の作成 歴史博物館ホームページへのアップ

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	事業調整、諸会議の運営、人事労務事務等、適切に実施することができた。	B

(注) 評価について

各事業について、平成 24 年度事業計画と比較した事業進捗・達成度合により、次の基準で自己評価を記載しています。

評価基準については、平成 21 年 6 月の理事会・評議員会で決定されたものです。

S	目標を大きく上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より大幅に進めた。 定量評価：目標値 120%以上達成
A	目標を上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より進めた。 定量評価：目標値 105%以上 120%未満達成
B	目標通りの成果が上がった。予定通り進めた。 定量評価：目標値 95%以上 105%未満達成
C	目標を下回る成果にとどまった。予定通り進めることができなかった。 定量評価：目標値 80%以上 95%未満達成
D	目標を大きく下回る成果にとどまった。予定より大幅に遅れた。 定量評価：目標値 80%未満

公益事業

I 埋蔵文化財センター事業

1 埋蔵文化財整備事業（定款第4条第1項第1号①）

港北ニュータウン開発に伴う出土品・遺構測量図等の記録資料の整理を行い、成果を報告書としてまとめるほか、写真資料等のデジタル化・出土品保管状況の改善事業を実施しました。

（1）遺物整理・調査研究

項 目	事 業 内 容
加賀原遺跡・佐江戸第8遺跡の整理 (3/3年次)	実測図作成、トレース、原稿執筆等を実施。 縄文時代中期集落ほか。 現在地：都筑区加賀原1丁目（旧港北区池辺町）
権田原遺跡の基礎整理 (3/4年次)	出土品接合・復元、図面等記録類の基礎整理作業を実施。 先土器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良平安時代集落ほか。 現在地：都筑区早渕3丁目（旧港北区新吉田町）
港北ニュータウン内遺跡の記録類検討・整理	神隠丸山遺跡等の記録類を検討し、資料整理及び挿図の作成を行った。

（2）報告書刊行

項 目	事 業 内 容
加賀原・佐江戸第8遺跡	遺物整理・調査研究の成果を報告書として刊行した。 作成部数 300部

（3）資料保存・整理

項 目	事 業 内 容
記録資料デジタル化	フィルム写真資料を高精細スキャンし画像データ化した。また、検索用データを作成し、資料保存と活用の利便性向上を図った。 デジタル化点数 4,730カット/41日（前年度：7,975カット/72日）
出土品等保管再整備	三殿台考古館・潮田収蔵庫より搬入した市内遺跡出土品（東原遺跡18箱・専念寺裏遺跡70箱・三ツ沢貝塚80箱・獅子ヶ谷遺跡60箱・上谷本第3地区遺跡90箱ほか）について分類し、一部を除き収納した。 数量：木箱 318箱
図書等の受入れ・整備	受贈図書の受入れ、整理、保管、データのカード化などの整備を行い、市民の利用に供した。 受入れ点数： 調査報告書 946点 その他 269点 合 計 1,215点

(4) 緊急雇用創出事業

項 目	事 業 内 容
埋蔵文化財（自然遺物） 水洗・選別事業	政府の緊急雇用創出事業として、収蔵・保管されている貝塚出土の遺物について、ふるい掛け・水洗を行い、貝類、獣魚骨等の自然遺物及び人工遺物を分類・整理し、保管するとともにデータを作成した。本年度は茅ヶ崎貝塚（都筑区）・三ッ沢貝塚（神奈川区）ほかの自然遺物を中心に、予定どおり実施した。 実施期間：H24. 6 月～H25. 1 月（8 カ月） 整理数量：土のう袋165袋、テンバコ203箱、木箱354箱 雇用人数：9 人（延べ1, 283 人）

2 普及啓発事業（定款第4条第1項第1号②）

港北ニュータウン開発や公共事業等に伴う発掘調査の成果の市民への還元及び埋蔵文化財保護への市民の関心を高めるため、広報紙やホームページ等での情報発信及び、歴史博物館や埋蔵文化財出土地域での展示・講演会などを開催しました。

(1) 広報

項 目	事 業 内 容
『埋文よこはま』の 刊行	市内の埋蔵文化財情報を市民へわかりやすく発信した。 埋文よこはま26・27（年2回） 各10,000部
インターネットによる 情報公開	財団開設のホームページ上で、市内の埋蔵文化財情報や、Q&A、財団各施設の情報提供、刊行物の紹介等を行った。本年度は6回更新した。 アクセス件数 12,820件（前年度17,003件）

(2) 講座・講演会等の開催

名称／開催期間	事 業 内 容
講座「横浜の考古学」 平成24年11月8日（土）・ 11月15日（土）（連続）	「横浜の土器を学ぶ」をテーマに、連続講座を実施した。本年度は2日間で全5講座を開催した。 11/8 第1回 「縄文土器研究と横浜の遺跡」 石井 寛 第2回 「勝坂式から加曽利E式へ」 山田光洋 第3回 「称名寺式土器をめぐって」 石井 寛 11/15 第4回 「横浜の弥生土器-中期から後期へ-」 古屋紀之 第5回 「横浜の土師器・須恵器」 鈴木重信 会 場：歴史博物館 参加料：1,000円 参加者：84人（目標：120人）
「横浜の遺跡展」関連講座 平成25年1月12日（土）	「横浜の遺跡展」関連事業として、講演会を実施した。 演 題：『縄文時代中期の横浜』 「縄文時代中期の横浜」 石井 寛 「黒曜石が語る縄文時代社会の交流」 建石 徹（文化庁） 会 場：歴史博物館 参加料：500円 参加者：105人（目標：70人）

体験学習 定期開催：6～12月の偶数月最終土曜日及び夏休み期間に実施	偶数月の最終土曜日と学校の夏休み期間中を定期開催日として、土器文様の拓本とりと、勾玉づくりまたは土器パズルづくりをセットとする体験学習教室や、竪穴住居跡の体験発掘を開催した。 体験学習（7回開催） 参加者：66人 体験発掘（2回開催） 参加者：35人 参加者：101人（目標：150人） 定期開催のほか、出前での開催を全4回実施した。 8/9 睦コミュニティハウス 参加者：2人 8/23 青葉台コミュニティハウス 参加者：20人 8/25 栄区民文化センターリリス 参加者：53人 10/12 ふじやま公園 参加者：13人 参加者：88人
講師派遣	8/18（土）・19（日） 山田光洋 会場：アクトシティ浜松 「古代への音浪漫」（主催：（公財）浜松市文化振興財団） 受講者：103人 10/17（水） 山田光洋 会場：神奈川台場跡 神奈川台場解説（主催：神奈川県文化財協会） 受講者：48人 3/5（月） 古屋紀之 会場：地球市民かながわプラザホール 「方形周溝墓から古墳へ」（主催：古代史セミナー運営委員会） 受講者：220人 参加者：371人（全3回） ※埋蔵文化財に関するもののみ。体験学習を伴うものは割愛。
子どもアドベンチャー2012 平成24年8月22日（水）	横浜市主催の「子どもアドベンチャー2012」に参加し、出土土器水洗い体験を実施した。 参加者 39人（募集人数40人）
埋蔵文化財センター見学者対応	埋蔵文化財センターへ来館した市民に、センターを案内し資料について解説を行った。 見学者：305人（前年度296人）

（3）展示等の開催

企画展名/開催期間	事業内容
「武家の古都・鎌倉」世界遺産登録推進事業	埋蔵文化財センターをはじめ、他施設で世界遺産関連のパネル展示を実施した。 8/25 栄区民文化センターリリス 9/7～10/31 金沢図書館 11/2～30 埋蔵文化財センター 12/4～28 中央図書館 12/8～1/14 歴史博物館

平成 24 年度 横浜の遺跡展 「縄文時代中期の横浜」 平成 24 年 12 月 8 日(土)～ 平成 25 年 1 月 14 日(月・祝) 会期 26 日	本年度発掘調査報告書を刊行した加賀原・佐江戸第 8 遺跡をはじめ、横浜市内における縄文時代中期遺跡出土の土器を展示するとともに、出土黒耀石の産地分析について速報として成果を発表した。また関連事業として講演会を開催した。 同時開催：世界遺産関連事業「称名寺を掘る」 会場：歴史博物館 観覧者：3,981 人（目標：3,500 人） また、開催中フロアーレクチャーを延べ 4 回実施した。 12/15 午前：20 人 午後：16 人 1/14 午前：27 人 午後：10 人 参加者：計 73 人
展示室リニューアル	展示室の展示について、出土資料や写真資料・解説文を充実させ、映像資料も視聴できる環境を整え、より市民が利用しやすくわかりやすい展示に再整備した。



展示室入口



展示室（縄文コーナー）



展示室（映像コーナー）

（４）市民協働

項 目	資 料 の 内 容
ボランティアの活用	体験学習の実施にあたって、ボランティアの協力を得て開催しました。 活動延べ人数：28 人

（５）実物資料利用

項 目	事 業 内 容
発掘資料・写真資料の貸出展示等	遺物貸出：市内小学校で常設展示 12 件
	コミュニティハウスで常設展示 1 件
	郷土史団体等市民団体 1 件
	横浜市ほか公共機関 2 件
	写真貸出：博物館等の施設 2 件
	横浜市ほか公共機関 0 件
	写真掲載：博物館等の施設 1 件
	出版社等 9 件
	横浜市ほか公共機関等 6 件

(6) 資料移管・受贈

項 目	資 料 の 内 容
資料の移管	宿根東遺跡（港北区 No. 173 遺跡）出土資料（出土遺物 10 箱、図面・写真ファイル等） 移管元：大成エンジニアリング株式会社

3 発掘調査事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の発掘調査及び発掘調査の成果を整理し、報告書を刊行する業務を行いました。

(1) 発掘調査

事業略名称	遺 跡 名	所 在 地	調査区分	委 託 者
三溪園大池及び外苑流れ試掘調査	名勝三溪園	横浜市中区本牧三之谷	確認調査	(公財)三溪園保勝会
三溪園外苑流れ試掘調査（追加）	名勝三溪園	横浜市中区本牧三之谷	確認調査	(公財)三溪園保勝会

(2) 整理報告書作成

事業略名称	遺 跡 名	所 在 地	委 託 者	備 考
瀬戸神社旧境内地内遺跡整理報告	瀬戸神社旧境内地内遺跡	横浜市金沢区瀬戸	横浜市土地整備局	報告書を刊行
三溪園大池及び外苑流れ試掘調査	名勝三溪園	横浜市中区本牧三之谷	(公財)三溪園保勝会	報告書を作成
三溪園外苑流れ試掘調査（追加）	名勝三溪園	横浜市中区本牧三之谷	(公財)三溪園保勝会	報告書を作成

4 施設連携事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

項 目	事 業 内 容
施設連携広報	「古代人ワールド」と題し、夏期に開催される考古関連の体験学習について、 歴史博物館・三殿台考古館と 3 施設共同のチラシを作成 し配布した。 (枚数：4,500 枚)



子どもアドベンチャー2012



体験発掘



横浜の遺跡展

5 埋蔵文化財センター施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

埋蔵文化財センターの施設維持管理及び運営を行ないました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
埋蔵文化財センター	施設の維持管理 ・埋蔵文化財センター看板・利用案内板を設置した。 ・展示室空調設備の設置及び窓サッシの改修を実施した。
	研修室の利用 5 団体

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
埋蔵文化財整備事業	港北ニュータウン所在遺跡について、予定どおり整理報告作業をすすめ、一遺跡の報告書を刊行しました。記録資料デジタル化は昨年度に比べ実働日数は少ないものの、計画を上回る点数を処理することができ、緊急雇用創出事業も昨年度以上の数量を実施しました。また、三殿台遺跡から搬入した出土品等について整理・分類作業に着手し、資料の保管状況を改善しました。	B
普及啓発事業	「横浜の遺跡展」の観覧者数は目標の110%を超え、講演会参加者も目標の150%に達するなど大変盛況でした。子どもアドベンチャー2012はほぼ満員の参加者でした。世界遺産関連パネル展は歴史博物館や図書館等各施設と協力して、延5カ月間開催しました。また、体験学習の出前開催や講師派遣等普及啓発に努めました。	A
発掘調査事業	昨年度に引き続き実施した三溪園整備事業に伴う試掘調査のほか、瀬戸神社旧境内地内遺跡の整理報告事業を受託しました。	A
施設連携事業	歴史博物館・三殿台考古館と連携し広報を行ないました。	B
施設維持事業	埋蔵文化財センターの施設維持管理を適切に実施しました。利用案内板等の設置、展示室空調設備の設置・サッシの改修等を実施しました。	A

Ⅱ 市史資料室事業

横浜市総務局が所管する横浜市史資料室所蔵資料（昭和期の市政に関する資料や、横浜の歴史・文化、また市民の生活に関する資料など、昭和の横浜を記録した資料）の公開・閲覧を行い、あわせて所蔵資料の保存・管理を行いました。さらに、今年度は**現代史に関する新たな資料の調査・収集を図り、所蔵資料の整理・目録化を進めました。**

公開・普及事業では、展示会「占領軍のいた街」と関連講演会が、目標を超える入場者と参加者を得ることができました。さらに、所蔵資料の閲覧や活用を促進するため、公開講座を開催しました。資料室内展示コーナーでは、随時所蔵資料をミニ展示で紹介しました。

所蔵資料の活用としては、市史所蔵資料・写真を、企業・団体・学校等に貸出し、開港資料館・都市発展記念館をはじめ、市内博物館・図書館等に展示資料を提供しました。また、各区図書館等の企画展示開催にあたって企画に協力しました。

施設連携事業では、開港資料館・都市発展記念館と共同して研究や所蔵資料のデータベース化をおこなう事業を開始し、今後、3つの施設が連携して展示・講座・出版などをおこなっていくための組織を立ち上げました。また、横浜市政策課の協力のもと、市政関係のヒアリングも行いました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）資料の収集・管理・公開

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈	寄贈 23件 4,130点	主な収集資料：荏部正家資料・高波正治家資料・土山忠滋家資料ほかの寄贈を受けた。
図書・刊行物	約1,890点	図書（約490冊）・行政刊行物（約1,400冊）の収集・整理を行った。
資料の移管	6件 9,149点	移管資料：戸塚区（写真）、中区文書、歴代市長肖像写真、火災保険図、市民ギャラリー写真パネル等の移管を受けた。
資料の購入	4件 6点	主な資料：神奈川高等女学校創立二十周年記念絵葉書、横浜港図など
資料のマイクロ化等	マイクロフィルム 125,000コマ プリント 32,444枚 写真等複製 2,658枚	公開用の複製資料を作製するため、資料をマイクロフィルム撮影するとともに、一部の資料については、プリント製本を作製した。 そのほか、写真資料の複写・スキャニングによるデータ化、および旧公図・火災保険図のスキャニング・プリントによる複製作成を行った。 主な資料：元街小学校資料、桜井康信資料、伊藤博資料、半井清資料、神奈川新聞など （横浜市総務局法制課予算にて執行）

資料整理・保存		収集資料の整理、目録の作成、及び一部資料について公開に向け、再整理を行った。また、中性紙封筒への封入及び再整理資料の中性紙封筒への入れ替えを行った。 閲覧室に目録棚を設置し、公開資料の目録を準備の整ったものから順次配架した。
資料公開	入室者数 955 人	資料閲覧・複写・レファレンス対応等を行った。
資料貸出	貸出件数 199 件	出版物掲載 (52 件)、放映等利用 (39 件)、展示出陳 (40 件)、複写 (33 件)、その他授業で使用、HP 掲載など (35 件) のために写真、パネル及び資料の貸出を行った。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）調査研究

項 目	事 業 内 容
資料調査	市史資料室所蔵震災関係写真のデータベース作成に関して、前川写真館の調査、震災関係画像の所在調査等を行った。浴場関係、田村明家、高波正治家、横浜商業高校等を調査し、寄贈資料の整理・目録化をおこなった。 横浜の戦前・戦後の文化調査として、作家北林透馬関係の清水正夫氏からヒアリングをおこなった。
展示会等の関連調査研究	展示会「占領軍のいた街」開催に当って、占領期の米軍施設調査と占領期に撮影された写真の調査を進め、写真家三橋松太郎氏の調査を行った。 報告書『ヨコハマの台所』に関連して、横浜市中心卸売市場・食肉市場等の資料調査・ヒアリング等の調査をおこなった。
市政ヒアリング	横浜市政政策課の協力のもと、横浜市役所OBによる意見交換会を行い、元都市計画局長小沢恵一氏のヒアリングを行った。
共同調査研究	都市発展記念館・開港資料館との共同研究事業を立ち上げ、戦後高度経済成長期の資料と文献の調査、および研究例会を行った。 市史資料室・開港資料館・都市発展記念館が所蔵する地図のデータベースを作成するための調査作業をおこなった。

3 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

（1）閲覧室運営

項 目	平成24年度	平成23年度	平成22年度
展示見学者（人）（注1）目標数 6,000 人	9, 9 1 6	1 0, 6 2 0	5, 9 7 1
入室者数（人）目標数 1,200 人	9 5 5	9 6 3	8 9 9
資料閲覧室利用者数（人）（注2）	1 4 0	1 6 3	1 9 6
複写申込件数（件）	3 1 5	3 3 1	2 8 0

レファレンス件数（注３）	１６４	１４０	１１９
電話レファレンス件数（注４） 目標数 300 件	３１７	３０５	２３３

（注１）市史資料室内展示コーナーの見学者数

（注２）資料閲覧室は、一次資料専用の閲覧室であり、開架資料の閲覧室とは別室

（注３）レファレンス件数は、来室者からレファレンスを受け付けた件数

（注４）メールレファレンス含む

（２）展示会・講演会・講座の開催

項目	事業内容
展示会の開催	写真パネル展「占領軍のいた街ー戦後横浜の出発」 平成２４年７月１８日（水）～９月１７日（月） 入場者数：約１２，０００名（センサーカウンターによる） 占領下に置かれた横浜で、米軍の兵士や家族と、復興を目指す日本の人びとが共存していた姿を、日米双方の写真を展示して紹介した。 展示解説と講演「占領の中の横浜・神奈川」 平成２４年８月１８日 参加者：２４０人 定員２００人を越える参加があった。
横浜市史資料室内 展示コーナー （ミニ展示）	展示ケースで、ミニ展示「マリンタワーと氷川丸」、「占領軍のいた街」関連展示、「山下公園の誕生」を行った他、写真集『昭和の横浜』掲載写真を拡大プリントで随時紹介した。
公開講座の開催	「横浜から昭和を探るー新しい昭和史像を求めて」 平成２４年７月２１日（土） 参加者：１３２人 共催：占領・戦後史研究会、後援：首都圏形成史研究会

（３）情報発信・普及広報

項目	事業内容
『市史通信』の刊行	情報誌として『市史通信』（No. 14～No. 16）を刊行（各 5,000 部）した。資料提供者（機関）、及び関係者（機関）へ発送するとともに、市民に配布した。また、同一内容の PDF ファイルをホームページ上でも公開した。
『紀要』の刊行	所蔵資料の調査を中心とした、横浜の昭和史に関する研究成果を発表するため、『横浜市史資料室紀要』第 3 号（2,000 部）を刊行した。 今回は、特集として公開講座「横浜から昭和を探る」の内容を原稿化し、掲載した。
報告書『横浜の台所』の刊行	平成 23 年度の展示会「ヨコハマの台所」の内容を一書にまとめ、報告書『ヨコハマの台所』（2,000 部）を刊行した。
その他促進事業	・開港資料館企画展・都市発展記念館企画展の展示協力 ・神奈川県立歴史博物館特別展「ヨコハマ・ヨコスカストーリー」（H24. 4/21～6/17）展示協力 ・「ヨコハマの台所」写真展 企画協力

	神奈川区役所（5/7～18）、神奈川図書館（6/5～15）、神ノ木地区センター（7/12～8/31） ・ 泉図書館「あゝなつかしの昭和初期の体操」（8/1～24）企画協力 ・ 港南図書館パネル展「関東大震災と復興」（8/10～8/19）企画協力 ・ 戸塚図書館パネル展「横浜・関東大震災の記憶」（9/1～17）企画協力 ・ 保土ヶ谷図書館パネル展「横浜・関東大震災の記憶」（9/13～9/30）企画協力 ・ 桐蔭学園「わたしの八月十五日展」（9/22～10/20）展示協力
ホームページの公開	ホームページに、目録情報や所蔵資料概要を掲載し、刊行物の案内、展示会等の案内、『市史通信』の掲載など情報発信を行った。（横浜市総務局法制課で作成・随時更新） アクセス件数：約 10,000 件
広報宣伝活動	・ 写真パネル展「占領軍のいた街―戦後横浜の出発」取材対応（産経・神奈川新聞ほか）、及び図書館職員向け展示解説 ・ 写真パネル展・公開講座・展示解説と講演のそれぞれについて、案内ちらし・ポスターを作成、発送及び配布。 ・ 空襲関連貸出資料のご案内ちらしを、市内小学校、川崎市内一部小学校へ発送。 ・ 「市史資料室ご利用案内」リーフレット、刊行物ちらしの作成、発送。
その他	① 学芸員課程学生の施設見学・案内受入（9/14 桜美林大学：参加 15 名） ② 講師派遣 ・ 横浜市立大学総合講義「横浜学事始」 ・ 港南図書館・戸塚図書館・保土ヶ谷図書館、震災関係パネル展ギャラリートーク ・ かながわコミュニティカレッジ ③ その他 ・ カナダテレビ、震災関連インタビュー ・ キャンプ座間広報ビデオ、瑞穂埠頭関連インタビュー ・ 第 29 回歴史地震研究会（9/14～16）における行事幹事を職員が担当、研究会開催・進行・会場設営など全般対応を行った。 ・ 『横濱 YOKOHAMA』秋号 原稿掲載

事業別評価

	実施概要	評価
市史資料室事業	横浜市の委託事業は順調に実施しました。 展示見学者・入室者はほぼ昨年度の水準を維持しました。来年度以降の開港・都発との共同事業実施にむけての共同研究や資料のデータベース化もおこないました。	B

Ⅲ 史跡等管理事業

1 八聖殿郷土資料館事業（定款第4条第1項第1号②・③）

（1）八聖殿郷土資料館事業

横浜市の歴史・文化財関連諸施設の維持管理及び運営を行いました。また、今年度から講座・歴史散歩については、資料代として参加料200円を徴収することとしました。

項 目	事 業 内 容
連続講座の開催	本牧地域の歴史を交えて歴史講座を開催した。 隔月第3土曜日（全6回） 参加料：200円 参加者：計239人
特別講座の開催	10月に集中して、1回完結の特別講座を開催した。 3回開催（10／3・10・24） 参加料：200円 参加者：計56人
歴史散歩の開催	連続講座で取り上げた地域を中心に、実際に現地へ赴いて、散策しながら地域の歴史について解説した。 4回開催 参加料：200円 参加者：計118人 第1回 9／29（土） 大船旧玉縄城周辺 参加者：31人 10／4（木） ” 参加者：36人 第2回 2／9（土） 旧藤沢御殿周辺 参加者：22人 2／14（木） ” 参加者：29人
学校連携 （目標数400人）	近隣の小学生を対象に、草履編み体験や昔の農具・民具に触れてもらう体験学習を行った。中学校生徒には本牧の歴史、昔の米作りの解説を行った。 小学校 2校181人 中学校 1校184人 参加者：計3校 365人
資料整理保管	①収蔵資料を、農具・漁具・生活用具・玩具の4種類に大分類し、区分して収蔵庫を整理し直した。また、過去に途中まで整理をした記録を参考にしながら、資料の再整理、保存状態の確認・修復を始めた。 ②図書資料については、資料群の中から安達謙蔵氏旧蔵資料を区分し、図書資料目録の作成に着手した。 ③紙袋に詰められたまま放置状態となっていた写真資料・ネガをアルバムに整理した。
展示更新	展示パネルの入替を行った。
情報発信	ホームページで施設紹介を行ったほか、地区センター等に講座開催の情報を発信した。

（2）八聖殿郷土資料館入館者の推移（目標数10,000人）

項 目	平成24年度	平成23年度	平成22年度
八聖殿郷土資料館入館者数（人）	6,090	6,054	7,741

2 史跡管理事業（定款第4条第1項第1号③）

管理対象施設等	事業内容・所在地など
国指定史跡称名寺境内	史跡の維持管理 所在地：金沢区金沢町
県指定史跡稻荷前古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区大場町
県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区市ヶ尾町
上行寺東遺跡復元整備地	史跡の維持管理 所在地：金沢区六浦二丁目

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
史跡等管理事業	八聖殿郷土資料館では、昨年度に比し入館者が微増しましたが、目標数の6割と、数値は届きませんでした。講座は順調に実施しました。現物資料・図書資料・写真資料については、少しずつ再整理を始めることが出来ました。	B

Ⅳ 歴史博物館事業

歴史博物館は、開港に至るまでの市域の歴史を「人々の生活」の視点から解明し、市民が「ふるさと横浜」の歴史と文化に親しみ、学ぶことに寄与するため、高い専門性に裏付けられた事業を進めるとともに、地域や学校との連携を一層深め、市民の期待や要望に即した幅広い活動を目指し、本年度も各種事業に積極的に取り組みました。

博物館事業の根幹となる資料の収集・保管・整理、修繕・燻蒸等は着実に実施しました。また調査研究事業は5本を行い、その成果は講座、企画展の開催に活用しました。

企画普及事業では、展覧会を6回開催すると共に、学校団体による利用促進のための月曜日開館、**学校向けにも配慮した考古学や生麦事件の展示**、小学校への出前授業・出張土器焼き体験や、集客イベントとしての学芸員による常設展示解説、収蔵資料ミニ展示と解説などを実施しました。市民協働では、地元の郷土史の会との連携、遺跡公園ガイドボランティアの活動とともに、活動支援ボランティアも着実に活動を積み重ねました。**また、環境創造局のみどりアップ事業と連携したワークショップを実施し、都筑民家園と協働して歴史博物館・民家園・遺跡公園を利用した都筑遺跡公園民家園アート月間を開催しました。博物館の講座OB会の4団体がそれぞれの活動を行うと共に、博物館の支援、博物館との協働を目的に「博物館もりあげ隊」を作り、活動を展開しました。**

施設の管理運営面では、経年劣化の機器類の恒常的な保守を行い、野外施設では劣化した案内板・柵列の修繕等を行いました。

これらの事業を通して、施設の有効利用と認知度・来館者満足度が向上し、当初設定した目標もほぼ達成することができました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸を行いました。

（1）資料の収集・管理

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈 1,109 件 2,935 点 寄託 0 件 0 点	主な収集資料：忠勇旗、銭湯関係道具、街頭紙芝居、昭和30年代の家計簿など生活雑貨、印半纏、ポリ茶瓶、ほか
実物資料の購入	17 件 119 点	主な収集資料：源平盛衰記（版本）、鎌倉大草紙（写本）、古今著聞集（版本）、島津文三郎来翰、教草、東海道五十三次細見図会神奈川、ほか
レプリカ製作	6 件 6 点	主な資料：称名寺貝塚・B貝塚出土鹿角製釣針・銚頭、平城京・長屋王邸跡出土「相模国高座郡美濃里秦大口」木簡・「相模国高倉郡美濃里口一升口勺」木簡
マイクロ撮影	3,600 コマ（複製7本、製本80冊）	主な資料：金沢藩土荻原家文書・松澤家文書（製本のみ）

資料の修繕・保存	3 件 2 5 点	主な資料：赤羽刀の研磨、佐久間象山関係書簡（23点）、紙本著色結城合戦図の補修
資料の整理活用（収集資料のデータ入力）	2,077 件	実物資料・図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用（収集資料の貸出）	5 件 1 3 点	他の博物館・資料館での企画展・特別展に本館所蔵資料の貸出を行った。
図書資料の公開	3,891 件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数 700 カット 新規登録件数 0 件	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収蔵資料の撮影と整理・登録を行った。
画像資料の貸出	貸出件数 59 件 154 点	他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の貸出を行った。

（２）資料収集内訳（H24.4～H25.3）

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵 画（点）	6 (11)	— (—)	— (—)	— (—)	6 (11)	1,942 (1,936)
工芸品（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	132 (132)
彫 刻（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	20 (20)
書 跡（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (1)	— (1)	49 (49)
典 籍（点）	76 (7)	— (—)	— (—)	— (—)	76 (7)	4,065 (3,989)
古文書（点）	7 (4)	— (—)	— (—)	— (—)	7 (4)	31,179 (31,172)
古記録（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	39 (39)
絵 図（点）	2 (1)	— (—)	— (—)	— (—)	2 (1)	168 (166)
歴史資料（点）	28 (2)	— (—)	2,787 (2,652)	— (—)	2,815 (2,654)	16,544 (13,729)
考古資料（点）	— (—)	6 (6)	6 (332)	— (—)	12 (338)	1,379 (1,367)
民俗資料（点）	— (—)	— (—)	142 (855)	— (—)	142 (855)	9,389 (9,247)
図書文献資料（点）	279 (131)	— (—)	1,621 (1,024)	— (—)	1,900 (1,155)	60,262 (58,362)
合 計	398 (156)	6 (6)	4,556 (4,865)	— (—)	4,960 (5,027)	125,168 (120,208)

※（ ）内は、前年度点数。



購入資料 古今著聞集



寄贈資料 銭湯関係資料

(3) 図書閲覧室利用状況

項 目	平成24年	平成23年	平成22年
閲覧室利用者数(人)	6,394	7,646	7,871
複写申込件数(件)	560	468	549
複写枚数(枚)	5,020	4,469	5,043
レファレンス件数(件)	550	582	575

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	燻蒸庫を使った二酸化炭素燻蒸のほか、資料に則した簡易燻蒸も合わせて行った。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

(5) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
歴史博物館収蔵庫 (1,901 m ²)	原始・古代から近現代までの考古資料・歴史資料・民俗資料。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

収集資料の整理や調査研究、企画展や講座・講演会の基礎的資料収集のための調査研究・資料整理を行いました。

(1) 基礎的調査研究1：収蔵資料に関する調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
縄文時代後期の漁具の研究（2／3年次）	市域出土の縄文時代後期の漁具・動物遺存体を分析することにより、当時の漁労活動の実態を明らかにする。当財団および他機関（武相学園、汐見台小学校など）所蔵の市域貝塚出土資料の調査を進めた。

佐久間象山資料の研究（２／３年次）	当館所蔵「熊倉家伝来 佐久間象山関係資料」を分析し、佐久間象山と横浜開港の関係を再検討する。当館所蔵の資料群「熊倉家伝来 佐久間象山資料」の書翰資料を読み込み、内容把握と位置づけを行った。
横浜市所蔵街頭紙芝居の研究（２／３年次）	中央図書館所蔵資料の一部整理と撮影を行ったほか、市域在住の元街頭紙芝居師の聞き書き、また新たに寄贈された街頭紙芝居コレクションについて整理し、調査報告書に報告した。

（２）基礎的調査研究２：地域資料に関する調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
埴輪の生産体制と地域社会の研究（２／３年次）	横浜市域出土の埴輪の事例から、生産・供給体制の分析を通じて地域間ネットワークの様相を検討する。横浜市域出土の埴輪の事例の集成を進めつつ、課題の抽出を行った。
久良岐郡蒔田郷の吉良氏・蒔田氏の研究（２／３年次）	久良岐郡蒔田郷の吉良氏・蒔田氏：室町・戦国時代、南区蒔田を拠点とした吉良氏・蒔田氏の資料を収集・検討することにより、その実態を明らかにする。本年度は室町～戦国時代に吉良氏の拠点となった南区蒔田町の蒔田城について、既存の研究を整理し、近世・近現代の文字資料、絵図資料をもとに、明治期の旧公図も参照して、その城の様子と周辺の景観を再現する試みを行った。

（３）市民協働の調査研究：フィールド調査を基礎として、市民とともに調査研究を行う

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
市民協働民俗調査（２／３年次）	平成２３年度に組織化した「民俗に親しむ会」によるフィールド調査を行ったほか、相模原市立博物館が組織している民俗調査の市民団体との交流会を実施した。

（４）企画展関係にともなう調査研究：企画展・特別展の開催に向けての調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
「ムラに生きる人々」に関する調査研究	２５年度以降に開催する予定の企画展の検討と、基礎的な資料の調査を行った。
「人と物の流れ」に関する調査研究	２５年度以降に開催する予定の企画展に関わる資料の調査、借用交渉などを行った。
「変わる横浜の形」に関する調査研究	２５年度以降に開催する予定の企画展の計画立案、基礎的な資料の確認調査を行った。

（５）資料の調査整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
資料の整理	資料収集活動や調査研究で収集した資料・データなどの整理を行った。

３ 常設展事業（定款第４条第１項第１号②）

常設展示室において、収蔵資料の公開や、学芸員による解説を実施することで、積極的な集客

を図りました。また、展示資料・ジオラマ類・映像機器類の保守点検を実施しました。

(1) 常設展示室での実施事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
常設展示解説	毎月末土曜日に「ラストサタデープログラム」の一環として、学芸員による常設展示解説を行った。 参加者：214名（1日2回：全24回）
収蔵資料ミニ展示	7・8・9月と1・2・3月の6回、各時代の収蔵資料をスタジオサロンで展示し、各最終日に解説を行った。 解説参加者：87人（1日2回：全12回）

(2) 常設展示室観覧者の推移（目標数 79,500 人）

	有料観覧者（人）				無料観覧者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
24年度	10,710	1,064	10,663	22,437	46,020	68,457	92.4%	310日	221
23年度	10,767	1,239	12,056	24,062	50,038	74,100	105.1%	311日	238
22年度	11,804	1,078	10,751	23,633	46,868	70,501	95.2%	305日	231

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示を補うテーマや、新たな調査研究の成果に基づく企画展示を開催しました。同時に、市民に横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるように体験学習や歴史講座等を開催し、生涯学習活動を支援しました。

また、地域・学校や市民ボランティアと連携した事業や、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。

本年度は、環境創造局のみどりアップ「森の収穫体験事業」の一環として、ふるさと横浜探検「恩田川流域の田んぼと新治の里山を訪ねて」、体験学習「竹の風車」・「繭細工」・「ぞうり編み」・「凧作り」・「紙すき」・「横浜の土偶」、堅穴住居に泊まろう、土器作り教室を実施しました。

(1) 企画展・特別展の実施

画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「海にこぎ出せ！ 弥生人ー」 H24.4.7（土） ～5.27（日） 会期 48 日	大人 500 円 大高 300 円 小中 100 円	25,888 人 （目標数 24,000 人） 1日あたり 185 人	従来の稲作中心、あるいは大陸・西日本中心の弥生時代像にかわり、各地域における漁撈文化の実態、そこからみえてくる地域間の交流といった側面に焦点を当てた展示を行った。展示の中心となった漁具・貝輪については本州太平洋沿岸・日本海沿岸の関連資料をほぼ集成し、研究史上一つの区切りとなる展示になったといえる。このほかに横浜市内の弥生貝塚を初めてまとまった形で取り上げた。また展示に関連して、貝輪作りの体験学習を実施した。 ① 講演会 4／29（日）忍澤成視「貝の考古学」

			参加料 500 円、参加者 76 人 ② フロアレクチャー 6 日 12 回 参加者 205 人 ③ 貝輪をつくろう 4 / 29 (日) 参加料 500 円、参加者 30 人 ④ 研究講座 4 / 14 (土) 「弥生時代の漁具」参加者 14 人 5 / 12 (土) 「弥生人と貝塚」参加者 24 人 ⑤ 関連遺跡見学バスツアー「三浦半島の遺跡と資料館を訪ねて」5 / 23 (水) 参加者 24 人 ⑥ 図録等刊行物の作成 1500 部作成 定価 800 円、売上 304 部 ⑦ 関連図書コーナーの設置 (図書閲覧室)
収蔵資料展「相模国鎌倉郡鍛冶ヶ谷村と小岩井家」 H24.6.9 (土) ～7.8 (日) 会期 26 日	大人 200 円 大高 150 円 小中 100 円	5,725 人 (目標数 7,000 人) 1 日あたり 220 人	当館寄託の相模国鎌倉郡鍛冶ヶ谷村 (栄区) の小岩井家文書の内容を紹介すると共に、近世後期に三浦半島海防に関連して担当大名の領地・預地となった、市城南西の内陸部に位置する栄区域の地域性を紹介した。栄区役所と本郷ふじやま公園運営委員会の「後援」を得て、小岩井家住宅 (市文化財指定) の移築先であり本郷ふじやま公園の見学会を行った。 ① フロアレクチャー 6 日 10 回 参加者 97 人 ② 研究講座 参加料 200 円 6 / 17 (日) 「鍛冶ヶ谷村と小岩井六郎兵衛」参加者 61 人 6 / 24 (日) 「戸塚宿助郷と海防関連の役負担」参加者 34 人 7 / 1 (日) 「御用留にみるペリー来航と横浜開港」参加料 700 円、参加者 58 人 7 / 8 (日) 「寺社・信仰とのかかわり」参加者 43 人 ③ 協賛企画「旧小岩井家住宅見学会」参加者 35 人 ④ 図録等刊行物の作成 1500 部作成 定価 300 円、売上 319 部 ⑤ 関連図書コーナーの設置 (図書閲覧室)
企画展 「生麦事件と横浜の村々」	大人 300 円 高大 200 円	9,279 人 (目標数 7,000 人)	生麦事件から 150 年になる今年度、事件の経緯をはじめ、開港後に横浜周辺で起こった外国人襲撃事件や幕府の治安対策、その後の国内情勢や、市域の村々に与えた影響についての展示を行った。特に、市域と周辺

H24. 7. 28(土) ～9. 23(日) 会期 50 日	小中 100 円	1 日あたり 73 人	の村々の動向などについて当時の記録などから探り、事件の半年後の英国の賠償請求に伴う艦隊来航が、市域の村々にさまざまな影響を与えたことを紹介した。関連企画として講演会や研究講座、フロアレクチャーなどを行った。また本展は、開港資料館「生麦事件 激震、幕末日本」と連携し、さまざまな事業を行った。埋蔵文化財センターの協力で、神奈川台場パネル展も行った。鶴見区とも連携し、パネル展やウォーキングイベントへの参加なども行った。 ① 講演会 9 / 9 (日) 「生麦事件からみる幕末の日本と世界」 参加料 5 0 0 円、参加者 1 6 4 人 ② フロアレクチャー 4 日 8 回 参加者 1 6 8 人 ③ 親子向けフロアレクチャー 4 日 8 回 参加者 2 0 7 人 ④ 研究講座 参加料 2 0 0 円 9 / 1 (土) 「相州浦賀湊の浪士取締と海防体制」 参加者 5 7 人 9 / 8 (土) 「幕末江戸の外国人」 参加者 7 6 人 9 / 1 5 (土) 「幕臣小野友五郎の江戸湾海防構想とその展開」 参加者 6 7 人 9 / 2 2 (土) 「生麦事件と横浜の人々」 参加者 1 0 6 人 ⑤ 図録等刊行物の作成 2, 8 0 0 部作成 定価 9 0 0 円、売上 1, 3 6 7 部 ⑥ 関連図書コーナーの設置 (図書閲覧室)
企画展 「畠山重忠一横浜・二俣川に散った武蔵武士一」 H24. 10. 13(土) ～11. 25(水・祝) 会期 38 日	大人 400 円 高大 200 円 小中 100 円	6, 408 人 (目標数 7, 500 人) 1 日あたり 203 人	歴史資料や伝承をふまえて、武蔵武士の鑑と評価される畠山重忠の生涯と人物像をたどるとともに、畠山氏と同様に、鎌倉幕府を支えた武蔵武士をめぐる諸相を紹介し、その中に畠山重忠を位置づけた。特に大鎧の構造と特徴や、弓矢・刀剣・馬具など武士の装いに力点をおいて展示を行った。また、後世においてヒーロー・畠山重忠像がどのように作られていったのかも探りました。 ①講演会 参加料：5 0 0 円 1 1 / 4 (日) 「源平内乱と畠山重忠」 参加者 1 1 1 人 1 1 / 2 3 (金・祝) 「鎌倉幕府の成立と畠山重忠」

			参加者 168 人 (「武家の古都・鎌倉」世界遺産登録推進事業関連) ②研究講座 参加料：200 円 10 / 21 (日) 「畠山重忠とその時代」 参加者 82 人 11 / 11 (日) 「平安時代末～鎌倉時代の大鎧」 参加者 51 人 11 / 18 (日) 「秩父平氏の展開 川越氏と畠山氏」 参加者 97 人 ③ フロアレクチャー 10 回 参加者 194 人 ④関係遺跡散歩「畠山重忠の遺跡を訪ねて」 11 / 14 (水) 参加料 700 円 参加者 31 人 ⑤史跡見学バスツアー「畠山重忠の故地を訪ねて」 11 / 7 (水) 参加料 4000 円 参加者 38 ⑥ 図録等刊行物の作成 図録 1500 部作成 定価 1200 円、売上 889 部 ⑦ 関連図書コーナーの設置 (図書閲覧室)
「武家の古都・鎌倉」世界遺産登録推進事業関連「称名寺を掘る」 「横浜の遺跡展－縄文時代中期の横浜－」 H24. 12. 8(土) ～H25. 1. 14(月・祝) 会期 27 日	無料	3,981 人 (目標数 3,500 人) 1 日あたり 152 人	「武家の古都・鎌倉」の世界遺産登録推進に関連して、世界遺産候補の構成遺産となっている金沢区の称名寺をとりあげ、平成 12 年度・13 年度に埋蔵文化財センターによって実施された境内地域の発掘調査の成果を紹介した。同時に市内遺跡の調査・整理の成果を報告する「横浜の遺跡展－縄文時代中期の横浜－」、横浜市立学校総合文化祭「社会科作品展」を開催した。またエントランスで世界遺産登録推進関係の展示を行った。 ①フロアレクチャー 2 日 4 回 参加 73 人 ②「横浜の遺跡」展講演会「縄文時代中期の横浜」 1 / 12 (日) 参加料 500 円 参加者 105 人 ③関連図書コーナーの設置 (図書閲覧室)
企画展 「千歯こきーこうして横浜へやって来たー」 H25. 1. 26(土)～ 3. 24(火・祝) 会期 50 日	大人 300 円 高大 200 円 小中 100 円	6,666 人 (目標数 7,000 人) 1 日あたり 179 人	本展では、江戸時代から昭和時代まで使われた脱穀用具である千歯扱きについて、その製造と流通の様子を中心に紹介した。関連事業としては講演会やフロアレクチャーのほか、展示した 48 挺の千歯扱きから印象に残ったものを投票してもらう、「SBK48」を実施した。「SBK48」については、館員の協力によりツイッターやフェイスブックを活用して展示した千歯扱きを紹介したところ多くの反響を得た。

			①講演会 参加料：500円 2/11（月・祝）「農具史上から見た元禄期」 参加者62人 3/9（土）「千歯扱き行商と直し出職」 参加者38人 ②フロアレクチャー 5日5回 参加者69人 ③SBK48 印象に残った千歯扱きはどれ？ 投票数 894人 ④図録等刊行物の作成 1500部作成 定価1200円、売上182部 ⑤関連図書コーナーの設置（図書閲覧室）
--	--	--	---

（2）企画展示室観覧者の推移（目標数 56,000 人）

	有料観覧者（人）				無料観覧者 （人）	合計 （人）	前年比	開催 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
24年度	8,496	594	5,758	14,848	43,099	57,947	107.4%	239日	242
23年度	6,228	482	2,449	9,159	44,781	53,940	102.9%	246日	219
22年度	7,898	632	4,960	13,490	38,951	52,441	107.2%	226日	232



企画展「生麦事件と横浜の村々」展示会場



展示を観覧するウエイス夫妻



特別展「畠山重忠」講演会



企画展「千歯こき」展示状況

(3) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
古文書解読教室 初めての古文書 H24. 10. 5(金) ～12. 7(金) 毎金曜 10回連続	各回 49人 (目標数 40人) 合計 490人	初心者を対象に江戸時代の古文書を教材として解読の初歩を学ぶ講座を行った。 講師：井上攻、小林紀子 会場：歴史博物館 研修室 参加料：5, 000円
近世史講座 H25. 1. 16(水) ～2. 13(水) 毎水曜 5回連続	各回 40人 (目標数 40人) 合計 200人	横浜の近世資料を素材に、様々な問題を読み解き、その時代背景などを解説する講座を行った。 講師：斉藤司 会場：歴史博物館 講堂 参加料：2, 500円
古代史料講読講座 H25. 1. 16(水) ～2. 13(水) 毎水曜 5回連続	各回 41人 (目標数 40人) 合計 205人	日本古代史の主要な問題について関係史料を読み解きながらアプローチする講座を行った。 講師：平野卓治、柳沼千枝 会場：歴史博物館 講堂 参加料：2, 500円
土器づくり教室 H25. 2. 13(日) ～3. 16(土) 全4回	各回 9人 (目標数 20人) 合計 36人	横浜縄文土器づくりの会の指導で、港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルに土器づくりの体験教室を行った。 会場：歴史博物館 工房・野外広場 参加料：3, 500円
開館 18 周年記念特別 講演会 H25. 2. 2(土)	156人 (目標数 170人)	開館 18 周年を記念して「千恵の生涯 -関口日記を読む-」と題する特別講演会を行った。 講師：大口勇次郎（お茶の水大学名誉教授） 会場：歴史博物館 講堂
講師派遣		地域の研究団体、歴史研究サークル等が主催する講座・講演会へ学芸員を派遣した。延べ29回。

(4) 体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事業内容
体験学習室 毎日開催	57,285人 (目標数 60,000人)	無料	さまざまな道具に直接触れ、歴史を実感できる内容で実施した。 常時開催：銅鐸鳴らし、石臼で粉ひき、火打石、あかり比べ等 ミニ展示 ・江戸の旅・明治の旅 7/12(木)～10/2(火) ・武士の時代 10/3(水)～11/29(木) ・ちょっと昔を探してみよう

			12/1（木）～3/30（金） ・「江戸時代の旅」「ちょっと昔をさがしてみよう」に合わせ、子ども向けのワークシートなどを用意し、放課後や週末のこどもの居場所を提供した。
体験コーナー H24. 4. 9(月) ～H24. 6. 29（金）	30,201 人	無料	小学校団体が多い4～6月にかけて、エントランスホールで火起こし疑似体験、遺跡公園で貫頭衣を試着したりできるコーナーを設置し、ミニ体験を実施した。
工房 土日開催(1日2回) (年度通算23日46回)	1,077 人	300 円	小学生の親子を中心に、楽しみながら歴史に触れる教室を開催した。 4/14（土）・15（日）：小さな弥生土器 6/16（土）・17（日）：小田原提灯、 7/24（水）・8/21（火）・22（水）：勾玉、 7/25（木）：竹の風車、 7/31（火）・8/1（水）：万祝染、 8/7（火）・8（水）：縄文の仮面、 8/14（火）：縄文ポシェット、 8/15（水）：繭細工、 10/6（土）・7（日）：縄文の土偶、 11/24（土）・25（日）：草履編み、 12/15（土）・16（日）：和風、 2/9（土）・10（日）：紙すき、 2/16（土）：横浜の土偶
竪穴住居に泊まろう H24. 9. 15(土) ～9. 16(日)	9家族23人 (目標数 8家族)	大人 1,500 円、子供 700 円	小学生とその親を対象に遺跡の復元住居で、火起こしや遺跡解説、竪穴住居に宿泊する体験教室を行った。
あじろ編みでバック を作ろう H25. 2. 22（金）	12人 (目標数 10人)	1,200 円	大人を対象にあじろ編みの技術を用いたバック作りの体験学習を実施した。
出張土器づくり教室	166 人		横浜縄文土器づくりの会との協働で、市内の公立小学校へ出張して、土器づくりの指導を行った。 7/13（金）・8/31（金）・10/23（火） 豊岡小学校 94人 7/11（水）・9/12（水）・11/9（金） 南神大寺小学校 41人 7/6（金）・10/10（水）・11/9（金） 下末吉小学校 30人

勾玉ワークショップ H24.5.3（木・祝）・4 （金・祝）	92人	420円	ゴールデンウィークの催事プログラムとして勾玉作りを研修室で開催した。
触れる体験 H24.6.28（木）	10人		久我山清光学園の児童にさまざまな資料に触れる体験を行った。
出前ワークショップ H24.6.23（土）	48人	700円	聖セシリア女子中学高等学校での出前勾玉ワークショップを開催した。
出張ワークショップ H24.5.20（日）・6.10 （日）・H25.3.10（日）	135人	500円	奈良地区センター・美しが丘西地区センター・都筑地区センターに出張し、勾玉作りのワークショップを実施した。
支援学級勾玉ワークショップ H24.9/6（木）・12/13 （木）	10人	500円	市立美しが丘中学校個別支援学級、市立聾支援学校の児童に勾玉作りのワークショップを行った。
体験広場野焼き	270人 （目標数 300人）	無料	工房で作った土偶等の野焼きを横浜縄文土器づくりの会と協働で行い、市民に公開した。 8/23（土）、10/27（土）、3/16（土）



体験学習 縄文ポシェット



出前ワークショップ

（５）「夏休み博物館たんけん隊」の実施

会場	開催日	参加者数	事業内容
常設展示室 企画展示室 博物館バックヤード	H24.8.5、 12、19、 26（日） 1日2回	207人 （目標数 160人）	博物館を楽しみながら関心を高めてもらうために、親子や児童生徒を中心に開催した。 内容：企画展の展示ポイント解説、常設展示室の照度測定体験、赤外線テレビカメラでの調査体験、博物館バックヤード見学など。

（６）「ふるさと横浜探検」の実施（目標数 30～35 人／回）

探訪地	開催日	参加者数	事業内容
災害から振り返る横浜の歴史	H24.4.25 （水）	18人	災害をテーマに関内周辺の史跡を探訪した。 参加料：700円
三浦半島の遺跡と資料館を訪ねて	H24.5.23 （水）	28人	池子遺跡群資料館や三浦半島の洞穴遺跡などを探訪した。参加料：700円

恩田川流域の田んぼ と新治の里山を訪ね て	H24. 9. 21 (土)	1 5 人	自然観察を中心に梅田川と新治市民の森を訪れた。 参加料：大人 7 0 0 円、小学生 3 0 0 円
朝夷奈切通と武家の 古都鎌倉を歩く	H24. 10. 24 (水)	1 2 人	朝夷名切通から鶴岡八幡宮まで、周辺の史跡や社寺 を探訪した。参加料：7 0 0 円
畠山重忠の遺跡を訪 ねて	H24. 11. 14 (水)	3 1 人	鶴ヶ峰周辺の畠山重忠の遺跡を探訪した。 参加料：7 0 0 円
三浦半島の城跡を訪 ねて (バスツアー)	H25. 3. 13 (水)	2 4 人	八王子城址と八王子市郷土資料館を探訪した 参加料：4 0 0 0 円



夏休み博物館たんけん隊



ふるさと横浜探検

(7) 集客イベント等

項 目	開催日	参加者 数	事 業 内 容
子どもの日スペシャ ル 大塚遺跡まつり	H24. 5. 5	1, 868 人	大塚・歳勝土遺跡公園内で、火起こし体験（参加者：503人）、弓矢で狩り体験（参加者：342人）、古代米一口体験（参加者：260人）、土器の野焼き（見学者：763人）を行った。
都筑遺跡公園民家園 アート月間	H24. 10. 28、 (日)～ 11. 23 (金)	3 9 0 人	○都筑遺跡公園民家園アート月間ワークショップ 10/28 (日) ・カポエイラパフォーマンス 参加者 50人 11/4 (日) ・キッズ弓矢体験 参加者 60人 ・ひみつ基地をつくろう！ 参加者 64人 ・朗読ワークショップ 参加者 16人 11/12 (月) 中川小学校 ・そのえだはこの木 (ワークショップ) 参加者 171人 11/23 (金) ・光の造形 (東京工芸大学+中川中学校美術部) 参加者 29人

博物館感謝デー	H25. 1. 26 (土)～ 27(日)	6,300 人	常設展示室・企画展示室の無料開放。常設展示・特別展解説、時代衣装を装着した案内係、紙芝居、勾玉づくり、「昭和の横浜」ビデオの上映、土器復元パズル、鏡パズル、ショップフェアを実施した。
ラストサタデープログラム	全3回	521 人	常設展示解説のほか、4,5,6,7月には正面玄関にて火起こし、弓矢体験を実施した。
夏休み紙芝居広場	H24. 7. 29(日)	104 人	鷺塚隆氏寄贈街頭紙芝居コレクションの活用の一環として街頭紙芝居の実演を行った。
チボリ兄弟舎紙芝居	H24. 8. 18 (土)・19 (日)	331 人	紙芝居活用の一環としてチボリ兄弟舎のオリジナル紙芝居の公演を行った。
のぞきからくり特別講演	H25. 1. (土)・ 6(日)・ 13(日)・ 14(月)	594 人	新潟市指定文化財ののぞきからくり「八百屋お七」の公開と実演を行った。



大塚遺跡まつり 古代米一口体験



アート月間 キッズ弓矢体験



チボリ兄弟舎紙芝居

(8) エントランスホールコンサートの実施

当館の認知度を高め、新規来館者の開拓を図るため、エントランスホールを会場としてコンサートを開催しました。

事業名/開催日	事業実績等
第22回コンサート 「ヴァイオリンとギターの艶やかな響き」 H24. 7. 14(土)	演奏者：ヴァイオリン 裕美穂子、ギター 竹内永和 来場者数：153人
第23回コンサート 「ひとあし早いクリスマスコンサート リズムとハーモニーのステキな贈り物」 H24. 12. 16(日)	演奏者：石塚千恵、永瀬成美、堀江冬子、長谷川しずか、富田真由香、堀江翔太 来場者数：351人



エントランスホールコンサート

(9) ボランティアの活動支援

項 目	事 業 内 容
ボランティア事業	・市民ボランティアにより、小中学校団体、及び一般来館者へ大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイドを行った。 また、当事業は、ガイド研修を通じて登録者の考古学・歴史学に関する自己学習・生涯学習の支援を兼ねている。 ①ガイド登録者数：77人 ②登録期間 2年間（但し、希望者は2年間延長更新可） ③基本ガイド時間 小学校団体 45分間 一 般 60分間 ・学校団体来館時の対応や、ラストサタデープログラムなどの事業を支援してもらうことを目的とした、活動支援ボランティアを実施した。 ①登録者数：30人 ②活動実績 4～6月学校団体対応火起こし疑似体験活動 ラストサタデープログラム体験イベント 勾玉教室、区民まつり、センター北まつり、感謝デー、 アートプロジェクト、リレーフォーライフ横浜、 都市発展記念館・ユーラシア文化館企画展ワークショップおよびイベント 活動のべ人数1,097人
ガイドボランティア研修の実施	・館外研修会・研修講座等を開催した。

項 目	平成24年度	平成23年度	平成22年度
ガイド実施日数(日)	310	310	305
解説回数(回)	1,311	1,285	951
1日平均解説回数(回)	4.11	4.05	3.02
参加者数(人)	26,980	29,083	28,672
団体対応(件)	298	321	292
団体のうち学校数(校)	272	289	277



遺跡ガイドボランティアの活動状況

活動支援ボランティアの活動状況（火起こし疑似体験）

(10) 子以遊傍尹未ノ天肥

学校利用を促進するために、エデュケーターを中心に「学校の博物館利用研究会」及び「教材開発研究会」を運営し、展示資料案内の作成、また、「吉田新田」「出張土器づくり」についての小学校への出前授業と、近隣4区の小学校向けに常設展示室で吉田新田の説明を行いました。また、教職員を対象とした、吉田新田の学習会を行い、各区社会科研究会研修会の運営に参加協力しました。

事業名／開催日	事業内容等
学校の博物館利用研究会 第1回 H24. 6. 2(土) 第2回 H24. 8. 25(土) 第3回 H24. 12. 8(土)	① 横浜市小学校社会科研究会所属の教員5人及び関係職員で構成。歴史博物館ホームページ掲載資料の内容検討をおこなった。 ② 歴史博物館ホームページ掲載「学習指導計画」検討。 ③ 歴史博物館ホームページ掲載「学習指導計画」完了。
教材開発研究会 第1回 H24. 6. 2(土) 第2回 H24. 9. 8(土) 第3回 H24. 12. 22(土)	① 横浜市立中学校教員5人、西部授業支援センター指導員1人、関係職員で構成。 ② 歴史博物館ホームページ掲載「学習指導計画」の検討。 ③ 歴史博物館ホームページ掲載「学習指導計画」完了。
教職員専門研修 H24. 8. 10(金)	市教育委員会が主催する教職員研修を受け入れて実施した。 参加人数：46人
月曜開館	学校団体の来館が多い4・5月の月曜日に臨時開館し（4日間）、混雑緩和と積極的な学校団体誘致を図った。
吉田新田出前授業 13校 1,575人	10／19（金）永谷小学校 117人 10／29（月）太尾小学校 147人 10／31（水）旭小学校 132人 11／2（金）川和東小学校 193人 11／7（水）稲荷台小学校 48人 11／14（水）篠原小学校 97人 11／21（水）立野小学校 122人 11／26（月）子安小学校 70人 11／27（火）子安小学校 69人 11／28（水）綱島東小学校 102人 12／5（水）菊名小学校 119人 12／7（金）平沼小学校 117人

	12 / 12 (水) 藤が丘小学校 115人 12 / 14 (金) 本宿小学校 127人
常設展示室 吉田新田説明 7校 676人	10 / 3 (水) 勝田小学校 101人 10 / 16 (火) 駒林小学校 80人 10 / 26 (金) 荏子田小学校 100人 10 / 15 (木) 西寺尾小学校 65人 10 / 15 (木) 鴨志田緑小学校 51人 10 / 20 (火) 茅ヶ崎東小学校 124人 10 / 22 (木) 牛久保小学校 155人
その他出前授業 縄文土器づくり 出前授業 3校 165人 その他 訪問授業 2校 191人	豊岡小学校 94人 土器づくり 7 / 13 (金)・8 / 31 (金)・10 / 23 (火) 南神大寺小学校 41人 土器づくり 7 / 11 (水)・9 / 12 (水)・11 / 9 (金) 下末吉小学校 30人 土器づくり 7 / 6 (金)・10 / 10 (水)・11 / 9 (金) その他 訪問授業 港南台第二小学校 11 / 16 (金) 35人 星川小学校 11 / 2 (金) 78人 12 / 21 (金) 78人
教職員対象の吉田新田の学習会	授業での学習ポイントを説明 8 / 3 (金) 2回 39人、8 / 23 (金) 2回 26人
横浜市及び各区研究会への 研修事業	港北区社会科研究会 6 / 13 (水) 22人 教育政策推進室社会科研究会 6 / 27 (水) 18人 横浜市社会科研究会 7 / 26 (水) 50人 横浜市総合的な学習研究会 8 / 1 (水) 23人 緑区社会科研究会研究会 9 / 12 (水) 25人 港南区社会科研究会研究会 11 / 14 (水) 45人 横浜市社会科研究会3年授業研究会 12 / 5 (水) 40人 緑区社会科研究会授業研究会 1 / 23 (水) 54人 横浜教師塾研修会 12 / 1 (水) 100人
県立高校日本史「郷土かながわ」 関連授業	県立横浜緑園総合高校 7 / 26 (水) 生徒19人参加

(11) 市民諸団体との協働事業

当館では市民と共に歩む博物館を目指して、博物館に集う市民諸団体と博物館のあり方を検討しつつ、協働事業を実施しました。当館主催の講座OB会である「横浜古文書を読む会」、「横浜縄文土器作りの会」、「横浜古代史料を読む会」、ガイドボランティアのOB会である「横浜さいかちの会」の4団体は博物館の支援、博物館との協働を目的に「横浜市歴史博物館関連団体連絡会（もりあげ隊）」を作り、活動しています。

項 目	事 業 内 容
-----	---------

「横浜古文書を読む会」との協働	当館の学芸員と史料の翻刻を行い、紀要に発表した。 「金川日記について（４）」（『横浜市歴史博物館紀要第 16 号』）
「横浜縄文土器作りの会」との協働	- 出張土器づくり教室（豊岡小・下末吉小・南神大寺小）を実施した。 - 土器づくり教室（H25. 2. 3～3. 16 全 4 回）を実施した。 - 横浜縄文土器作りの会作品展（H25. 1. 19～27）を開催した。 - 私たちがつくった縄文土器展（H25. 3. 17～24）を開催した。
「横浜さいかちの会」との協働	講演会を共催した。 小田静夫「壺屋焼が語る琉球外史」12/5（日） 講堂 120 人 ・古文書教室、「日本書紀」を読む講座の開催。
「横浜市歴史博物館関連団体連絡会」との協働	- 博物館感謝デーにおける常設展示室クイズラリーの実施、活動紹介パネル展の実施。 「文化施設利用状況アンケート」の実施。

(12) 学校団体利用の推移（目標数 500 校）

項 目	平成 2 4 年度	平成 2 3 年度	平成 2 2 年度
学 校 数（校）	4 3 1	4 8 4	4 2 3

うち小・中学校利用数

項 目	平成 2 4 年度	平成 2 3 年度	平成 2 2 年度
学校数（校）	4 0 9	4 3 3	4 1 5
児童・生徒数（人）	3 9, 2 4 8	4 1, 3 0 8	3 9, 9 8 4

(13) 実習・研修の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れ	博物館学芸員資格の取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 (A 日程) 期間：H24. 5. 26(土)～11. 10 (土) の内、 9 日間 受入数： 8 人 (B 日程) 期間：H24. 8. 3(日)～ 8. 28 (火) の内、 8 日間 受入数： 1 2 人
社会研修の受け入れ	生徒・学生・社会人の社会体験・研修等を受け入れた。 6／2 7 (水) 市立松本中学校 3 人 7／2 4～2 7 (火～金) 県立高校インターン 4 人 7／3 1 (火) 川崎市立犬蔵中学校 4 人 8／5・1 1・1 2 県立高校教員 10 年研修 1 人 9／6 (木) 市立中川西中学校 4 名 9／1 4 (金) 行方市立玉造中学校 3 人

	11/28～30（水～金）	市立東山田中学校	4人
	1/16（木）	市立中山中学校	4人
	1/18（金）	市立茅ヶ崎中学校	3人
	1/22・23（火・水）	市立荏田南中学校	2人
	1/24（木）	市立中川中学校	4人
	2/11（月・祝）	私立武蔵高校	2人
	2/5～16（火～金）	フェリス女学院大学	2人

(14) 広報出版

項 目	事 業 内 容
リーフレット類作成	歴史博物館案内パンフレット 歴史博物館案内児童用パンフレット 歴史博物館催し物案内（年2回） 通史展示解説シート
出版物発行	横浜市歴史博物館ニュース（2回） 各13,000部作成 横浜市歴史博物館資料目録 第21集 700部作成 横浜市歴史博物館紀要 第17号 800部作成 横浜市歴史博物館調査研究報告 第9号 800部作成
その他広報	市営地下鉄6駅構内の広報案内看板による広報 市営地下鉄の車内放送による広報 インターネットによる広報 一般新聞・雑誌等への広告掲載による広報 都筑区民まつりへの出店参加による広報 市営地下鉄車内吊り広告による広報 FM放送への情報提供 グランドミュージアム北部エリア会議参加 ソーシャルメディアネットワークによる情報発信

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
-----	---------

収蔵資料等データ入力及びインターネット公開	収蔵資料、図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。 - データ入力件数 合計 2, 0 7 7 件 - インターネット公開 - 収蔵資料情報の公開 合計 5 0 件 (前年度 5 0 件) - 図書文献資料情報の公開 合計 2, 027 件 (前年度 1, 302 件)
映像資料の公開	スタディサロンで映像ビデオを公開した。
文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理・発信やグループウェアに関わる機器類の保守を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページ上で、博物館の催し物案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 アクセス件数 合計 3 3 8, 9 0 7 件 (前年度 320, 033 件)
ツイッターを利用した博物館の情報発信	ツイッターを利用した博物館の展覧会、体験学習、講座・講演会などの様々な情報を発信した。

6 歴史博物館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。

（1）歴史博物館等の維持管理

管理対象施設等	事業内容・所在地など
歴史博物館	施設の維持管理、補修・修繕、燻蒸 スタディサロン・歴史劇場の運営 講堂、研修室の貸出 主な修繕： 加圧給水装置、同制御盤、空調レタンファン、パッケージエアコン、空調用温水・冷水ポンプ等 所在地：都筑区中川中央一丁目
歴史博物館野外施設	国指定史跡「大塚・歳勝土遺跡公園」の管理 主な修繕：復元竪穴住居2棟の屋根部分の修繕。遺跡説明板の修復。 所在地：都筑区大榎西

（2）講堂・研修室利用の推移

項 目		平成24年度	平成23年度	平成22年度
講 堂	利 用 者 数 (人)	2 3, 0 2 3	2 3, 6 3 6	2 5, 2 1 9
	利 用 件 数 (件)	1 7 1	1 5 6	1 4 5
	うち有料貸出件数 (件)	3 8	3 2	1 6
研修室	利 用 者 数 (人)	7, 3 0 0	7, 9 6 5	7, 3 3 1
	利 用 件 数 (件)	2 4 2	2 8 1	2 3 0
	うち有料貸出件数 (件)	1 4 9	1 3 8	1 5 1

(3) 歴史博物館野外施設入場者の推移

項 目		平成24年度	平成23年度	平成22年度
歴 史 博 物 館 野 外 施 設 (人)		56,428	57,337	59,174
内 訳	大 塚 遺 跡 (人)	50,435	52,727	52,775
	工 房 (人)	5,993	4,610	6,399

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料購入・寄贈・寄託による資料収集を行うとともに、複製資料の制作やマイクロフィルム制作などによる収集活動を着実に行いました。収集資料の整理・保管・データ入力、資料の修繕を進め、保管環境の調査・維持にもつとめました。また、画像資料の有料貸出も継続しました。本年度の収集資料は2,935点で、その中でも、市内で経営していた銭湯に関する資料は、今後、様々な活用できる資料群と評価できます。	B
調査研究事業	収蔵資料に関する調査研究を3本、また地域資料に関する調査研究を2本実施し、その成果は報告書として刊行・公開しました。市民協働による民俗調査研究も軌道にのりました。25年以降の企画展の基礎調査も計画の通り実施しました。	B
常設展事業	来館者に気持ち良く観覧してもらうため、定期のメンテナンスや部品交換、修繕、清掃等を計画通り実施し維持管理に努めました。 学芸員による展示解説、収蔵資料ミニ展示及び解説等は定着しています。ただ常設展示の入場者数は、当初目標の86%で、目標には達しませんでした。	C
企画普及事業	当初計画した様々な事業は予定通り実施しました。企画展・特別展の入場者は目標の103%という結果でした。夏期の生麦事件に関する展示は好調で、秋の特別展も好評でした。市民協働においては、活動支援ボランティアが定着し、講座OB団体の活動などに新しい展開がありました。学校連携としては、吉田新田の出前授業・常設展	B

	示室吉田新田コーナーの解説・教職員向けの研修など着実に実施しました。	
情報事業	館内の端末での情報提供とインターネットでの収蔵資料情報の公開等、情報発信を計画に基づき実施しました。インターネットへのアクセス数は、ほぼ昨年並みでした。	B
施設維持事業	経年劣化が進んでいる博物館施設、遺跡公園の施設等の維持管理を適切に実施しました。加圧給水装置、同制御盤、野外施設の遺跡説明板や劣化した柵列の修復を実施しました。	B

V 開港資料館事業

財団では、昨年度、近代横浜の歴史をあつかう開港資料館・都市発展記念館・市史資料室の連携をより強化し、各施設の活性化を図るため、3つの施設をひとつの課で運営する組織を作りました。今年度は新たな組織で一体的に事業を展開し、横浜の海をテーマにした企画展示を開港資料館と都市発展記念館の2つの会場で同時開催したほか、3つの施設の専門職員が合同で資料収集や所蔵資料のデータベース化に取り組む事業も発足させ、来年度以降にどのような連携事業をおこなうことができるのかを恒常的に検討できる体制を作りあげました。

「生麦事件 激震、幕末日本」では歴史博物館と、横浜でのインド人の活動を扱ったパネル展示（会場、ユーラシア文化館ギャラリー）ではユーラシア文化館と連携して事業をおこない大きな効果をあげました。

今年度の入館者総数は約5万4千人で、一昨年度にくらべ約4千人の増加であること、第2回企画展示までは昨年入館者数を超えていたことを考えれば、一昨年までの入館者数の減少には歯止めがかかりつつあると考えられます。横浜郷土史団体連絡協議会事業を中心とする市民協働事業、横浜市がおこなう事業への協賛事業（Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2012 など）も順調におこないました。また、会社・団体・個人からの補助金・寄付金の総額は100万円を超えました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管・修繕を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

（1）資料の収集・管理・公開（H23.4～H24.3）

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈7件 161点 寄託6件2,181点	主な収集資料：村田純一家所蔵資料・DKSHジャパン株式会社所蔵資料ほか
資料の購入	32件 344点	主な収集資料：英米外交官日本語学習帳ほか
古文書のマイクロ化	16件	主な複製（マイクロ撮影）資料：下岡蓮杖関係資料
資料の保存処理・修繕	4件	中性紙封筒への入れ替え、図書・洋新聞の修復
資料の分類・整理	古文書など 約3,000点	収集した歴史資料を保存・公開するため、資料群ごとに分類・整理した。
閲覧室における資料の公開とコピーサービス	閲覧室利用2,682人 コピー枚数31,921枚	邦字・欧字新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開、コピーサービスを行った。
写真資料・画像資料の撮影	撮影件数（14件）古写真や古記録など	企画展や閲覧公開に供する資料及び収蔵資料の撮影を行った。
複製フィルム等の貸出	貸出件数592件 1,963点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の貸出を行った。
実物資料の貸出	貸出件数6件	他の博物館（横浜みなと博物館・豊田市郷土資料館ほか）へ実物資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (H24.4～H25.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1,851 (1,851)
政府資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	16,137 (16,137)
海外資料 (点)	— (—)	1,000 (—)	— (—)	— (—)	1,000 (—)	14,027 (13,027)
文書・記録 (点)	33 (21)	19 (12)	78 (207)	2,036 (1,376)	2,166 (1,616)	78,174 (76,008)
新聞資料 (点)	2 (160)	1 (3)	— (1)	— (—)	3 (164)	9,933 (9,930)
横浜絵・写真等 (点)	48 (10)	357 (7)	69 (243)	144 (5)	618 (265)	32,356 (31,738)
コレクション (点)	— (—)	— (—)	14 (3)	1 (49)	15 (52)	50,233 (50,218)
文献資料 (点)	261 (72)	3 (8)	— (1)	— (—)	264 (81)	56,602 (56,338)
合 計	344 (263)	1,380 (30)	161 (455)	2,181 (1,430)	4,066 (2,178)	259,313 (255,247)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 複製フィルム等の貸出実績

項 目	平成 2 4 年度	平成 2 3 年度	平成 2 2 年度
出版社 (一般書・教科書・雑誌)、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への貸出	5 9 2 件	5 9 0 件	6 1 4 件

(4) 閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項 目	平成 2 4 年度	平成 2 3 年度	平成 2 2 年度
閲覧室利用者数 (人)	2, 6 8 2	2, 8 0 6	2, 9 0 0
複写申込件数 (件)	1, 4 5 0	1, 4 3 0	1, 4 6 2
複写枚数 (枚)	3 1, 9 2 1	3 0, 9 1 5	3 4, 4 6 7
レファレンス件数 (件)	2, 8 6 9	2, 7 4 0	2, 7 4 1

(5) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
環境検査	5 回／年 実施

(6) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
開港資料館収蔵庫 (310 m ²)	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。
大黒埠頭倉庫他	マイクロフィルム、器物資料等の収蔵と管理を行った。

2 調査研究事業 (定款第 4 条第 1 項第 1 号①)

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について調査研究を館外の研究者とも協力して行いました。また、開港資料館・都市発展記念館・市史資料室の事業を一層密接なものとするため、「戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業」を発足させ、関係資

料の収集、研究文献の掌握などを合同しておこなう体制を構築しました。さらに、来年度以降、当該のテーマを題材に、どのような事業（展示・講座・出版など）を合同して実施できるかの検討も始めました。さらに、3つの施設が所蔵する地図資料の統一的なデータベース化にも取り組みました。

（１）基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
開国・開港期の歴史	①長野県で発見された貿易関係資料の分析を実施 ②次年度開催予定の東京（江戸）と横浜の関係を紹介する企画展示についての調査と研究 ③スイス人商人の日記の翻刻 第１回企画展示「横浜の海 七面相」を担当
横浜近代政治史	①村田純一家文書・池谷光朗家文書・曾根盛鎮家文書等の整理 ②神奈川県郡長一覧を完成し、その特徴について研究 ③次年度開催予定の関東大震災に関する展示の調査と研究
横浜近代社会経済史	①茂木商店関係資料の整理 ②事業創業者関係資料の調査と研究 ③商標の整理・公開 第３回企画展示「事業を興せ」を担当
横浜近代文化史	①泉区内の旧家（安西家・小山家）が所蔵する資料の調査と研究 ②所蔵和装本の調査と公開に向けての装備 ③洋装本の整理の実施 第４回企画展示「スポーツがやってきた！」を担当
横浜近代欧米関係史	①海外関係資料の新収資料（ルジェーリ・コレクション（複写）、アーネスト・サトウ関係資料追加）と既収資料の整理 ②横浜市史資料室所蔵「横浜ユナイテッド・クラブ」関係資料の調査と研究 ③３館所蔵地図資料のデータベース化 ④紀要編集 第２回企画展示「生麦事件 激震、幕末日本」を担当
横浜近代アジア関係史	①華僑口述記録調査・編集作業を実施 ②次年度開催予定の「上海と横浜展」に関する調査と研究 ③横浜華僑関係の資料調査と収集 第１回企画展示「横浜の海 七面相」を担当
歴史情報の集積と研究	①横浜関係新聞・雑誌に関する調査と研究 ②新聞・雑誌の整理と公開 ③『横浜新報』社説目録の作成

(2) 調査研究の委託

項 目	委託先	目的・意図 及び 内容・成果
横浜市政及び周辺郡部の調査研究及び横浜の貿易・経済史の調査研究（2／3年次）	横浜近代史研究会 （代表 大豆生田稔）	①鶴見川流域史の多角的分析の作業としての、飯田助夫日記のデータ入力と池谷光朗家所蔵写真乾板のデジタル化を実施した。 ②横浜の人物誌的研究の基礎作業としての『横浜商人録』（1881年刊）のデジタル入力をおこなった。 ③横浜の貿易商渡辺福三郎関係の新出資料の調査と整理・デジタル化を実施した。 ④館蔵資料「曾根盛鎮関係資料」を分析した。
幕末・明治初年の貿易史と江戸期の和本に関する調査研究（2／3年次）	横浜史料調査研究会 （代表 井川克彦）	①市外・市内の個人や機関が所蔵する古文書の調査と研究（DKSHジャパン所蔵資料の調査・資料翻刻、長野県上田市の生糸貿易関係資料の調査など） ②スイス人商人ブレンワルドの日記の翻刻
大正・昭和戦前期の横浜在住外国人社会の調査研究（2／3年次）	横浜外国人社会研究会 （代表 本宮一男）	①関係資料の市内所在調査 ②横浜在住外国人のデータベース化と分析 ③在英の生麦事件関係及び英連邦墓地関係資料の追加調査・収集と分析（第2回企画展「生麦事件」解説執筆を含む）
華僑関係資料の調査研究（2／3年次）	横浜華僑史研究会 （代表 曾士才）	①オーラルヒストリーの実施 ②関係資料の所在調査・収集 ③中国人墓地および葬儀習慣等の調査

(3) 研究紀要の発行

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事 業 内 容
横浜開港資料館 紀要 第31号	1,250 部	1,529 円	当館専門職員等による資料の調査研究、整理等の成果をまとめた。 ・論文「絹織物輸出商社、堀越商会の経営」 ・研究ノート「ユリ根貿易史についての諸問題」「神奈川県における郡長の任免に関する一考察」 ・史料紹介「商標類鑑」「戦前期の横浜ユナイテッド・クラブ取引業者関係史料」 ・目録『横浜新報』社説目録

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、資料・展示ケースなどの保守点検を実施し、円滑な展示室運営を行いました。

(1) 常設展示室観覧者の推移 (目標数 61,000 人)

	有料入館者 (人)				無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	一般	小中	閲覧室	計					
24 年度	27,941	7,084	1,141	36,166	18,238	54,404	95.8%	303 日	180
23 年度	31,623	7,015	1,207	39,845	16,923	56,768	113.8%	304 日	187
22 年度	24,496	7,405	1,204	33,105	16,758	49,863	69.6%	295 日	169

(2) 新収蔵資料や新発見資料紹介コーナーの設置

常設展示室の一角に、新収蔵資料や新発見資料の紹介コーナーを設け、調査研究の成果をいち早く紹介した。

項 目	内 容 ・ 成 果
資料紹介	第 3 8 回 2 / 1 ~ 3 / 3 1 「下岡蓮杖の遺品」 第 3 9 回 4 / 3 ~ 4 / 2 0 「シドモアと横浜の桜の名所」 第 4 0 回 4 / 2 1 ~ 5 / 3 1 「カレー伝来から 1 4 0 年」 第 4 1 回 6 / 2 ~ 7 / 3 1 「日本アジア協会創立 1 4 0 周年」 第 4 2 回 8 / 1 ~ 8 / 3 1 「1 0 0 年前の夏休み」 第 4 3 回 9 / 1 ~ 9 / 3 0 「綴られた関東大震災」 第 4 4 回 1 0 / 2 ~ 1 1 / 3 0 「都筑郡鉄村・村田家の資料」 第 4 5 回 1 2 / 1 ~ 1 2 / 2 7 「明治・大正の洋食メニュー」 第 4 6 回 1 / 4 ~ 1 / 2 7 「天心岡倉覚三」 第 4 7 回 1 / 3 0 ~ 3 / 3 1 「幻の薩英戦争を伝えた記録」
・開港（開館）記念日 に関する事業	・記念室（旧領事室）等を公開し、記念室や常設展示室でミニ展示を行った （6 / 1 ~ 6 / 3 0）
・ユーラシア文化館と の共催展示	・ミュージアムショップセールを実施し、グッズ販売を促進した ・ユーラシア文化館企画展関連事業の「横浜におけるインド人の歴史」展を ユーラシア文化館と共催で実施した（会場はユーラシア文化館 1 階ギャラ リー）

(3) 旧館ホール・中庭展示

昨年度から来館者の動向調査を兼ねて、無料展示スペースである旧館ホール・中庭展示の見学者数の集計を始めた。

旧館ホール見学者：56,094 人

中庭展示見学者：81,156 人（目標数 100,000 人）

4 企画普及事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料の研究成果を企画展開催や紀要等で発表しました。また、横浜郷土史団体連絡協議会を中心に市民との協働を積極的に進め、研修会の実施や出版物の作成指導等を行いました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
「横浜の海 七面相」 H24. 4. 21(水)～7. 16(日) 会期 77 日 ※都市発展記念館との共同展示	期間合計 16,857 人 (目標数 21,000 人) 1 日あたり 218 人	横浜の海の個性を 7 つの顔 (変貌する海・まつりごとの海・文化の海・つなぐ海・豊穡の海・憩いの海・現在の海) に区分し、その歴史を幕末・明治編 (開港会場)、大正・昭和編 (都発会場) として 2 つの会場で開催した。関連事業として都発および京浜フェリー株式会社との共催で歴史探検クルーズを実施。
「生麦事件 激震、幕末日本」 H24. 7. 19(水)～10. 21(日) 会期 82 日 ※歴史博物館との共催展示	17,559 人 (目標数 16,000 人) 1 日あたり 214 人	歴史博物館と連携して、発生 150 年を迎えた生麦事件の展示を開催した。イギリス子孫宅で発見された犠牲者の書簡を本邦初公開し、また子孫を招聘して、全国的に多くのメディアで取りあげられた。歴史博物館作成図録の編集にも協力して一部解説を執筆し、また共催の展示講演会も実施した。生麦参考館や鶴見区役所、地元自治会・小学校、京浜急行・相鉄との連携もおこなって集客につなげた。
「事業を興せ！―近代ヨコハマ起業家列伝―」 H24. 10. 24(水)～H25. 1. 27(日) 会期 77 日	10,085 人 (目標数 13,000 人) 1 日あたり 131 人	横浜発展の機動力となった、起業家たち 20 人の生涯を、原資料本位で展示した。とくに貿易商の茂木惣兵衛・椎野正兵衛・渡辺福三郎、造船の渡辺忠右衛門、映画製作の佐伯永輔らについては、新出資料多数をもって紹介した。
「スポーツがやってきた！ 近代横浜スポーツ史」 H25. 1. 30(水)～4. 21(日) 年度中会期 53 日 ※都市発展記念館との連携展示	7,004 人 (24 年度内) 1 日あたり 132 人 (期間合計 目標数 11,000 人/ 実績数 8,834 人)	従来取り上げられることのなかった「スポーツ」をテーマに、横浜から日本中に広まった近代スポーツの、伝来と普及の歴史をたどり、横浜の地が日本の近代スポーツに果たした役割を明らかにした。未公開のスポーツ関係館蔵資料を展示することができた。また展示は、横浜都市発展記念館が開催した「ベースボール・シティー横浜」と連携し、同一デザイナーのデザインによる印刷物の作製や、両館入館者への絵葉書プレゼントを行った。シティー・ガイドと連携し、スポーツの史跡を訪ねるウォーキングを 4 回開催した。



第 1 回企画展示「横浜の海 七面相」出品資料「蒸気船就航の広告」

(2) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
第2回企画展示関連事業、歴史博物館との共催講演会「生麦事件からみる幕末の日本と世界」	160人	9/9(日)、会場は歴史博物館講堂 講師は保谷徹氏(東京大学史料編纂所教授)
第3回企画展示関連事業、シンポ「いま、近代起業家たちを語る」	74人	1/26(土)、会場は開港資料館講堂 展示で取り上げた起業家の中から今日まで事業を展開されている会社の経営者4名に、会社の歴史や創業者たちについて語ってもらった。
第3回企画展示関連事業、映画上映会「映像時代の先駆横浜シネマ商会」	145人	1/5(土)、1/19(土) 会場は開港資料館講堂 横浜で生まれた映画会社横浜シネマ商会が作成し、当時文部大臣賞を獲得したドキュメンタリー映画ほか3編と、アニメーション映画8編(弁士付き)を2日にわたって上映し、専門職による解説などをおこなった。

(3) 各種出版物の作成・編集

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
横浜市立大学発行『横浜一開国・開港』	1,500部	無料	横浜市立大学学術情報センター所蔵の貴重書コレクションから横浜の開国・開港の歴史に関する資料を紹介したもの。開港資料館が編集に協力し、当館の専門職が資料の解説を執筆した。
第3回企画展示「事業を興せ！—近代ヨコハマ起業家列伝—」の図録	1,500部	840円	開港期から昭和にかけての横浜の起業家をオールカラー図版で紹介。総頁数47頁。

(4) 市民との協働事業の実施

横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び開港資料館と各団体との協働事業を推進することを目的に、平成18年度末に設立した横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業として、会報の作成や、講座等を行いました。(平成24年度末現在、加盟52団体 賛助会員1団体)

項目	事業内容等
横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業	①研修会 第25回 5/25(水) 第26回 9/12(水) 第27回 12/7(水) 第28回 3/5(火) 全4回 参加者：延べ 179人 ②横浜郷土史連絡協議会 News の発行 25号～28号 ③「特別講座資料に触れる」を実施(全2回) ④青葉区の加盟団体と古文書解説テキストを編集 ⑤会報7号を刊行



横浜郷土史団体連絡協議会大会



横浜郷土史団体連絡協議会研修会

(5) 新聞社各社への記事連載への協力

項 目	事 業 内 容 等
神奈川新聞連載「学芸員ネットワーク、郷土史展望」執筆・監修、 神奈川新聞連載「生麦事件150年」(9月11日～9月15日)、 同「事業を興せ」(1月19日～1月23日)	神奈川新聞の連載「学芸員ネットワーク、郷土史展望」は月1回第3水曜日掲載で連載が継続中。監修を担当。他の連載は企画展にあわせて随時執筆。

(6) 実習・研修の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れとインターンシップなど	①博物館学芸員資格取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 期間：8/28(火)～9/2(日)、受入数：12人 ②横浜市立大学大学院生のインターンシップ (2人) 期間：6/1(金)～11/30(金)(のべ10日間) ③横浜市立の小中学校教諭の初任者研修に協力9/4(火) 受入数：15人

(7) 広報紙の発行、一般広報等

項 目	事 業 内 容
館報「開港のひろば」発行	企画展示・収蔵資料・館活動の紹介 第116号～119号(年4回)年間合計55,000部
リーフレット類作成	横浜開港資料館案内パンフレット(小中学生用) 横浜開港資料館案内パンフレット(一般用) 横浜開港資料館催し物案内、年2回

その他広報	①インターネットによる広報 ②メールニュースによる催し物などの情報発信 ③市営地下鉄関内駅構内の広報案内看板利用 鉄道各駅 PR ボックスへのチラシ掲出 ④みなとみらい線日本大通り駅構内のポスター掲示 みなとみらい線駅 PR ボックスへのチラシ掲出 ⑤市内類似観光施設・主要ホテル・観光案内所等への広報印刷物の配布 ⑥区連会掲示板などへのチラシ掲出 ⑦一般新聞・タウン情報誌、旅行情報誌等への随時記事掲載 ⑧TV、ラジオ、FM放送、CATV等の放送メディア利用 ⑨企画展後援新聞での連載・市広報誌等への記事掲載 ⑩各種団体のスタンプラリー等参加による集客活動
-------	--

(8) 横浜市役所などとの連携事業

項 目	事 業 内 容 等
横浜市役所や横浜シティー・ガイド協会との連携事業	・Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2012 に協賛して旧館ホールおよび記念室で「大正・昭和期の横浜と西洋舞踊」展を開催 7/1(日)～7/29(日) 来場者数4,697人 展示開催にあたり横浜アーツフェスティバル実行委員会から補助金90万円を得る。 ・横浜市による「武家の古都・鎌倉」世界遺産登録申請事業に協賛して幕末～明治時代の称名寺・金沢八景を題材にしたパネル展示を旧館ホールで開催、2/28(木)～3/31(日) ・第4回企画展示「スポーツがやってきた! 近代横浜スポーツ史」の関連事業として横浜シティー・ガイド協会と共催で「横浜スポーツ伝来の地を探してウォーキング」を開催 3/15(金)、3/20(金)、3/22(金)、3/27(金)

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するためにデータの入力等を行い文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
インターネットによる情報公開	ホームページの内容、体裁を一新し、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を行った。また、昨年度から開始したOPACでの所蔵図書の追加を順次おこない、ウェブ上での検索対象図書を増やした。さらに「開港のひろば」を追加し、全号がウェブ上で閲覧可能となった。 ・HPアクセス件数 アクセス件数 合計124,087件（前年度129,747件）

メールニュースの配信	「横浜開港資料館メールニュース」を毎月1回計12回、約800名をこえる登録者に配信した。
------------	--

6 開港資料館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

開港資料館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
開港資料館	必要に応じた施設の維持管理を実施

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	古文書・写真など13件、2,342点の寄贈・寄託を受け入れたほか、32件344点の資料を購入した。24年度末の所蔵資料総点数は25万9千点であり、着実に業務を進めている。	B
調査研究事業	調査研究員の研究事業および外部研究者に委託した調査研究活動は順調で、その成果を展示・講座・出版で公開した。研究の成果は新聞・雑誌、テレビで取り上げられることも多く、横浜市内の施設の中ではもっともマスコミへの露出度が高い。	A
常設展事業	新収・新発見資料コーナーで10回にわたって展示を開催した。新収・新発見資料コーナーで紹介した資料がマスコミで取り上げられることもあり、常設展示事業としては大きな成果をあげた。	B
企画普及事業	入館者は約5万4千人で、目標値6万1千人には達していない。しかし、冒頭にも記したように一昨年までの入館者の減少には歯止めがかかりつつある。	C
情報事業	HPでのOPACを含む収蔵資料の公開点数を拡充した。また、メールニュースでの情報発信も順調である。	A
施設維持事業	施設の老朽化がみられ、順次、横浜市と協議しながら修理を進めている。今年度は東側外壁ひび割れを補修した。日常の維持管理は順調である。	A

VI 都市発展記念館事業

都市発展記念館では、昨年度の「横浜市文化財施設のあり方検討委員会」の提言を受け、(1) 開港で実施する事業と都発で実施する事業の差別化をはかりながら、両館の事業連携を強化すること、(2) 都市発展記念館の知名度をアップさせ、入館者を増加させることに留意しながら事業を展開しました。

開港資料館との連携事業としては、企画展示を同時期に共同して開催し、2つの施設が同じようなテーマを別の角度から扱うことによって、両館の入館者増をはかりました。また、都市発展記念館・開港資料館・市史資料室の事業を一層密接なものとするため、3つの施設に配属された職員が合同して、関係資料の収集や研究などをおこなう体制を作りました。さらに、3つの施設がどのような共同事業（展示・講座・出版など）をおこなうことができるのかの検討も始めました。

知名度アップや入館者増については、ユーラシア文化館と共同して1階ギャラリーでの月イチ講座を開催し、固定客の獲得をはかったほか、企画展開催時以外にも多くの市民に来館してもらうことを目的に、常設展示室内で随時テーマを設定して資料を展示しました。また、昨年度から引き続き、ユ一文と共同で小学校4年生を対象に、吉田新田を題材にした学校の受け入れ事業をおこないました。さらに、さまざまなイベントも開催し、開館10周年イベントでは2日間で3500人もの入場がありました。

常設展示の入館者は3万3000人を超え、2つの企画展示の入館者は1万4000人を超えました。今年度の入館者は昨年と同様、一昨年の2倍以上に達し、都市発展記念館の知名度は従来に比較して大きく上がっています。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

横浜の都市形成、生活文化の歴史に関する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸や定期的な環境調査を行いました。

(1) 資料収集

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈41件 248点 寄託0件 0点	主な収集資料：開業時の市営地下鉄ダイヤ、昭和戦前期百貨店等チラシ、電気局生麦営業所運転表、震災記念の木盃、Y校野球部の記念ボール
資料の購入	108件 271点	主な収集資料：フェリス和英女学校中等部女学生旧蔵資料、日米大野球戦両軍陣容、横浜高等商業学校卒業記念アルバム、震災予防調査会報告、大正震災誌
資料修繕	0件	主な修繕資料：なし
資料の複製収集	0件 0点	主な複製資料：なし
複製資料デジタル化	117点	主な資料：市内風景写真（恩田喜一郎氏撮影寄贈）
複製資料の提供	36件 101点	他の博物館や公共機関、出版社、個人などへ所蔵資料を画像で提供した。

資料の貸出	2件 11点	他の博物館施設（品川歴史館、みなと博物館）での 展覧会に当館所蔵資料の貸出をおこなった。
-------	--------	---

(2) 資料収集実績 (H24.4～H25.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	4 (0)	0 (0)	31 (104)	0 (0)	35 (104)	1,357 (1,322)
図書	69 (36)	0 (0)	14 (1)	0 (1)	83 (38)	2,040 (1,957)
新聞雑誌	27 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	29 (4)	1,825 (1,796)
文書	29 (0)	0 (0)	13 (0)	0 (0)	42 (0)	3,342 (3,300)
紙票類	103 (14)	0 (0)	115 (5)	0 (0)	218 (19)	2,129 (1,911)
写真	8 (0)	0 (0)	64 (189)	0 (0)	72 (189)	6,908 (6,836)
絵葉書	27 (133)	0 (0)	9 (0)	0 (0)	36 (133)	2,412 (2,376)
地図	1 (1)	0 (0)	0 (3)	0 (0)	1 (4)	654 (653)
図面	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	938 (938)
絵画	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (1)
映像	0 (0)	0 (0)	0 (7)	0 (0)	0 (7)	54 (54)
録音資料	3 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	3 (1)	171 (168)
電子資料	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	12 (12)
合 計	271 (189)	0 (0)	248 (312)	0 (1)	519 (502)	21,843 (21,324)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 資料の保存・管理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	・収蔵資料の保管性能を高めるため、中性紙の資料保存容器（アーカイバル容器）に資料を入れ替えた。
環境調査	・虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境調査をユーラシア文化館と共同で実施した。 ・資料保存についての最新知見を得るため、文化財の虫菌害・保存対策研修会（6月18・19日）、文化財IPMコーディネータ資格取得講習会（12月13・14日）に参加し、文化財IPMコーディネータ資格を取得した。

(4) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館収蔵庫 (200㎡)	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫 (子安台)	大型家具 (昭和初期の置時計・大テーブル他)などを収蔵
外部倉庫 (大黒ふ頭)	麻真田関係資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

(5) 画像資料の公開

横浜市中心部の地図にさまざまな施設をポイントし、関連する画像や歴史情報を閲覧できるようにした「横浜歴史情報マップ」。今年度は地図の範囲を拡大し、地図を分割表示してより詳細に閲覧できるよう改変した。さらに地図上の施設数も合計75地点まで拡充した。

2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号①)

「都市形成」「市民の暮らし」「ヨコハマ文化」の3つのテーマに即して、資料調査・研究を行いました。また、**開港資料館・市史資料室との連携研究事業を立ち上げました。**

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
横浜市域の近代遺跡と出土遺物に関する調査研究 (2/5年次)	近代遺跡の観点から横浜の都市形成史を明らかにすることを目的として調査を行っている。本年度は、長者町煉瓦造倉庫の解体工事、および山下町71番地の建設工事に際して出土した遺物類の記録化をおこなった。また平成22・23年度に実施した三溪園旧松風閣の発掘調査成果を、ギャラリー展「発掘！原三溪のゲストハウス」および関連講座・見学会として公開した。
館蔵総合文書目録の作成に関する調査研究 (1/3年次)	当館が所蔵する文書資料の目録作成の前提作業として、資料群ごとにその概要を把握する作業を進めた。
地図データベース作成に関する調査研究 (1/4年次)	当館及び開港資料館、市史資料室が所蔵する地図資料を横断的に検索ができるよう整理・目録化を図る事業である。今年度は、三施設の既存の地図データを統合して母体となるデータベースをまず作成し、次に各施設で所蔵する地図資料を順次調査してデータベースの拡充を進めた (次年度に継続)。
昭和初期横浜のモダン都市文化の調査研究 (2/2年次)	1920～30年代の「モダン都市横浜」の諸相を明らかにすることを目的に、①昭和戦前期の横浜中心部に存在した施設の画像資料の収集と分析 ②昭和戦前期の横浜中心部の地図の作成 (増補) と公開 ③フェリス和英学校卒業生旧蔵資料の収集と分析 ④横浜近郊農村の資料 (小石川家文書) の目録作成と分析をおこない、①②はHPの「横浜歴史情報マップ」で、③はコーナー展、月イチ講座で、④は当館紀要 (開港資料館調査研究員と共同執筆) にて成果を公開した。

(2) 戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業

戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調

査研究事業を、市史資料室・開港資料館と連携して立ち上げた。今年度は「高度成長を迎えた横浜」を共通テーマに掲げて8回の定例会を実施した。うち、外部講師による報告会を3回（大西比呂志氏「横浜アメリカ国際交流史の視点から」、濱崎好治氏「戦後期の横浜・神奈川の映像資料について」、清水唯一朗氏「自治体におけるオーラル・ヒストリーについて」）、市史資料室所蔵の当該期に関する資料紹介を3回おこなった。また、高度成長期の都市横浜に関する悉皆的な文献リストを作成し、さらに高度成長期の横浜に関する基本文献の解題執筆を市史資料室・開港資料館職員と分担しておこなった。

（3）資料の調査整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
資料の整理・目録作成	調査研究で収集した資料・データなどの整理・目録作成を行った。 主な整理資料：長者町煉瓦造倉庫使用煉瓦、山下町71番地出土遺物、建築家J. H. モーガン関係資料、木村龍雄旧蔵資料、小石川家文書

（4）研究紀要の発行

書名	発行部数	目的・意図 及び 内容・成果
横浜都市発展記念館 紀要 第9号	1,000部	当館調査研究員による調査研究、資料整理等の成果を公開した。 ・建築家J. H. モーガン関係資料 ・横浜市技師がみた震災復興－木村龍雄旧蔵資料より－ ・小石川家文書目録

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室の維持管理を行うとともに、「常設展示室コーナー展」として話題性のある資料や新収蔵資料、企画展関連資料による展示を定期的に更新し、集客と来館者サービスに努めました。

（1）常設展示に関する実施事業

項 目	事 業 内 容
展示資料の更新	・「都市形成」「市民のくらし」ゾーンで現物資料の新規公開 ・博物館実習の一環として、実習生による収蔵資料紹介コーナーを一定期間設置した。
コーナー展の開催	次のコーナー展示・パネル展示を開催した。 ・都市シリーズ『京都』～日本の路面電車発祥の地（前年度より継続）3/3（土）～6/29（金） ・大正昭和の鎌倉・金沢ご案内 6/30（土）～10/23（火） ・関外と伊勢佐木の発展 ～吉田新田その後～ 7/19（木）～10/23（火） ・維新の起業家・高島嘉右衛門 10/24（水）～1/27（日） ・昭和はじめの女学校－フェリス和英女学校卒業生の旧蔵資料から－ 1/29（火）～4/19（金）

(2) 常設展示観覧者の推移 (目標数30,000人)

	有料入館者 (人)			無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
24年度	1,169	981	2,150	30,985	33,135	106.9%	307日	107
23年度	11,676	1,373	13,049	21,953	35,002	287.2%	310日	113
22年度	6,025	989	7,014	5,170	12,184	109.6%	302日	40

4 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

昭和期を中心とした横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるよう、またより多角的な視点から紹介できるよう、展覧会をはじめ、講座や各種イベントの開催、出版等の事業を開催しました。

昨年度に引き続き、小学校団体の受け入れや市民ボランティアの活用、ユーラシア文化館や開港資料館・市史資料室との連携、外部機関との協力に力を入れることで、幅広い事業展開を実現しました。

(1) 企画展の実施

展示名／開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
企画展 「横浜の海 七面相 大正・昭和編」 H24.4.21(土) ～7.16(月祝) 会期75日	一般 300円 小・中 150円	6,152人 (目標数 7,500人) 1日あたり82人	横浜の海の個性を7つの顔(変貌する海／まつりごとの海／文化の海／つなぐ海／豊穡の海／憩いの海／現在の海)に区分し、幕末から現在にいたる横浜の海の歴史を紹介した。 開港資料館が幕末・明治編、当館が大正・昭和編を担当し、連携展示として二つの会場で同時に開催した。 その他、下記の関連事業を実施した。 ①パネル展「横浜の海を支えた企業」 港湾関係の企業・団体から戦後期の港湾写真の出品を得て、1階ギャラリーで展示した。 ②歴史探検クルーズ 6/24、7/1・8・15(全6回) ＊6/24、7/15は午前・午後の2回、他は1日1回 参加者：計168人 ③1階ギャラリーでの展示関連ミニ講座 5/3・4・5・26、6/9・23(全6回) 参加者：計120人 ④展示図録の作成(開港資料館と共同編集) 部数：3,000部、定価：800円、売上：172部
特別展 「ベースボール・シティ 横浜」	一般 300円 小・中	24年度内実績 7,485人	横浜公園(平和)球場から横浜スタジアムへの歴史を交え、ハマの早慶戦、Y校、そしてベ이스ターズまで、横浜の昭和の野球史を紹介した。 開港資料館

H25. 2. 2(土)～4. 7(日) 会期56日(24年度50日)	150円	(目標数 5,600人) 1日あたり 149人 会期中計 実績 8,161人 1日あたり 145人	企画展「スポーツがやってきた！」との連携展示。 以下の関連および連携事業を実施した。 ①展示図録の編集・発行 部数：1,300部、定価：1,400円、売上：304部 ＊本書の序章として、開港資料館「スポーツがやってきた！」展の内容の一部を掲載した。 ②担当者による展示解説 2/3、2/17、3/3、3/31 いずれも(日)(全4回) 参加者：計69人 ③ワークショップ ストラックアウト、ゲーム(野球盤・双六等)、ユニフォームの試着体験などを活動ボランティアの支援を得て実施。毎週土・日および祝日に開催。 参加者：計1,371人 ④絵葉書のプレゼント 当展と開港資料館「スポーツがやってきた！」展の両展入場者にオリジナル絵葉書をプレゼントし観覧者の回遊をはかった。 受贈者：計1,376人 ⑤横浜スタジアム&ミュージアム見学ツアー 当展観覧(解説付き)の後、日本大通りと横浜公園を巡検し、横浜スタジアムを見学するツアーを開催した。(協力：横浜スタジアム) 3/28(木)、3/30(土)(全2回) 参加者：計48人 ⑥写真パネル展「プレイバック大洋・横浜」 1/29(火)～4/7(日) 1Fギャラリーにて 協力：横浜DeNAベイスターズ、横浜スタジアム、神奈川新聞社 ⑦開館10周年感謝イベント(詳細別記) 標記イベントのプログラムとして、昭和戦前期の野球映像の上映パフォーマンスと、元ベイスターズ鈴木尚典氏のトークイベントを実施した。
次年度企画展準備			次年度開催予定の関東大震災90周年展示を、開港資料館・市史資料室との連携展示とし、三施設の担当者による定例会議を開催して企画内容を検討した。



企画展「横浜の海」関連・歴史探検クルーズ



特別展「ベースボール・シティ横浜」展示風景

(2) 企画展示室観覧者の推移 (目標数12,800人)

	有料入館者 (人)	無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均 入館者 (人)
24年度	4,450	9,665	14,115	89.2%	112	126
23年度	6,764	9,049	15,813	252.6%	117	135
22年度	3,485	2,805	6,290	112.6%	150	42

※都市発展記念館とユーラシア文化館は企画展示室を共用しており、都市発展記念館は、22年度には1回、23・24年度は2回の企画展・特別展を開催しました。

(3) 開館10周年感謝イベントの実施

事業名称	参加者数	事業内容
開館10周年感謝イベントの開催 H25.3.9 (土)・10 (日)	3,514人	開館10周年を記念して、ユーラシア文化館と共催で全館無料の感謝イベントを開催。活動ボランティアの協力を得て、馬頭琴演奏会、モンゴルのおはなし会、なつかしの街頭紙芝居、ミュージック・クラウン、パントマイム、野球映像の上映パフォーマンス、特別展展示案内などを実施した。
トークイベントの実施 H25.3.17 (日)	55人	特別展「ベースボール・シティ横浜」に関連して、元横浜ベイスターズの鈴木尚典氏を招いてトークイベントを実施した。開港資料館との共催。
中庭でのインスタレーション H25.3.3 (日)～3.31 (日)		アーティスト丸山純子氏による「はなおくり」の制作を中庭で実施。インドの女性達が描くコーラムを想起させる作品。
パネル展「10周年のあゆみ」の開催 H25.2.21 (木)～開催中		開館以来の10年間に開催した企画展・特別展のポスターを一堂に集めて旧第一玄関に展示した。



なつかしの街頭紙芝居



鈴木尚典元選手のトークイベント

(4) 講座・講演会・歴史散歩など普及事業

事業名称	参加者数	事業内容
夏祭りの開催 H24. 8. 25(土)・26(日)	1,577人	ユーラシア文化館との共催で、夏祭りを開催。活動ボランティアの協力を得て、馬頭琴演奏会、モンゴルのおはなし会、なつかしの街頭紙芝居、ミニ講座などを実施した。
「ミュージアム・クイズラリー よこはま2012」への参加 H24. 7. 20(金)～8. 31(金)	198人(当館のみ)	子ども向け夏休み企画として、神奈川県立歴史博物館を中心に関内・山手地区の博物館施設15館でクイズラリーを実施した(県立歴史博物館主催)。また、その関連イベントとして、日本新聞博物館、放送ライブラリー、ユーラシア文化館と連携し、各館を巡るミュージアムツアーも実施した(8/29、参加者1人)。
「子どもアドベンチャー2012」への参加 H24. 8. 22(水)・23(木)	24人	市教育委員会が主催する子ども向け夏休み企画「子どもアドベンチャー2012」に参加。市内小中学生を対象に「一日まるごと博物館」と題して、展示解説体験や出土煉瓦の水洗い、受付体験、バックヤードツアーを実施した。
ギャラリー展「発掘! 原三溪の ゲストハウス」の開催 H24. 8. 25(土)～		平成22・23年度に実施した三溪園旧松風閣の発掘調査成果を、1階ギャラリーにてパネルと出土遺物で展示した。埋蔵文化財センターとの共催。(協力: 三溪園)
ミニ講座+見学会「発掘! 原三 溪のゲストハウス」の開催 H24. 9. 26(水)	14人	上記ギャラリー展に関連して、館内での講座と旧松風閣跡の現地見学会を実施した。埋蔵文化財センターとの共催。(協力: 三溪園)
人文地理学会歴史地理部会開 催への協力 H24. 6. 16(土)		当館旧第一玄関を会場として提供し、当館より地理関係資料の収集保管と活用についての報告、および常設展の解説を行った。
歴史地震研究会横浜大会の共 催 H24. 9. 14(金)～9. 16(日)	306人	歴史地震研究会が主催する大会を、開港資料館・当館との共催で実施した。研究発表会と現地見学会、公開講演会を開催し、多くの参加者を得た。

赤い靴文化事業団との共催事業の実施 H24. 11. 2（金）・3（土） H25. 2. 3（日）	60人	赤い靴文化事業団が主催する市民ミュージカル「三人ジェラルール」の関連事業として、写真パネル展および記念セミナーを共同で実施した。
月イチ講座の開催	69人	1階ギャラリーを活用した月1回の定例の講座を、ユーラシア文化館と共同で開催した。 第1回「映像でたどる昭和の横浜ー映像編」（10/20） 第2回「維新の起業家・高島嘉右衛門」（11/24） 第3回「昭和はじめの女学校」（12/22）
新聞での記事連載		神奈川新聞「ハマと野球の昭和史」計2回（3/18、3/20）



三溪園旧松風閣現地見学会



月イチ講座

（５）学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内小学校団体見学の受入	小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」（関外地区の発展）をテーマに、職員による解説とミニ体験のメニューを実施。前年度を上回る73校、6,347人の小学校4年生の団体入館があった。（前年度62校、6,072人）
教員向け研修の実施	財団エデュケーターと内容を検討し、小学校4年生向けのメニュー「吉田新田の開発とその後」について、夏休みに小学校教員向けの研修を実施した（参加者52人）。また小学校社会科研究会の研修会を受け入れた（参加者49人）。
学芸員実習の受け入れ	3名の学生を受け入れた。実習生を主体としてミニ展示を企画してもらい、学芸員の仕事について総合的な理解を深めてもらうと同時に、当館の展示事業のひとつにつなげた。
中学生職場体験の受け入れ	3校11名の中学生職場体験を受け入れ、ブログを使った広報、煉瓦の拓本採取などの作業を実施した。



教員向け研修会



市内小学校団体見学

(6) 近現代歴史資料課での施設間連携の強化

項 目	事 業 内 容
連携企画展の実施準備	企画から開催まで一体となって実施できるよう、次年度の企画展（関東大震災90周年、横浜と江戸／東京）について、担当者会議を定期的に開催し、展示準備を進めた。
地図データベース作成に関する調査研究	当館及び開港資料館、市史資料室が所蔵する地図資料を横断的に検索ができるよう整理・目録化を図る事業である。三施設の既存の地図データを統合して母体となるデータベースをまず作成し、次に各施設で所蔵する地図資料を順次調査してデータベースの拡充を進めた。
共同資料調査	開港資料館、市史資料室と共同で横浜商業高校の所蔵資料調査を実施した。

(7) 広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	都市発展記念館・ユーラシア文化館個々で作成していた館紹介リーフレットと半期ごとの催し物案内を、大きく見やすいものに統合した。また、企画展チラシだけでは発信しきれないイベント情報を別刷りの自主製作チラシで作成し、配布先の見直しを図りながら、定期的に配布した。館報については、開館10周年を機会にデザインを刷新し、継続して配布した。 ・横浜都市発展記念館催し物案内（館案内リーフレット） ・企画展ポスター・チラシ ・館報『ハマ発Newsletter』第18、19号（各10,000部）
優待カードの発行	年間パス「E Aハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円

その他広報	新規に横浜市文化観光局の媒体を通じての広報活動 横浜市を通じての記者発表 市内学校・公共施設へのチラシ配布 日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信 テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入 市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR
-------	--

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
ホームページ運営	新着情報の発信 企画展示案内の更新 館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載 ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ） 「横浜絵葉書データベース」等収蔵資料の画像公開
メールニュース配信	希望者に対してメールニュースの配信を実施した。当館の催し物について担当者がわかりやすく記事を執筆し、情報の羅列ではなく、読みでのある内容とした。 配信数 32号～37号+号外2回 計8回
「横浜歴史情報デジタルマップ」の拡充	昭和初期の横浜の地図をリライトし、地図上の当該箇所に関する歴史資料（画像）・歴史的情報を表示させる「横浜歴史情報マップ」。今年度は地図の範囲を拡大・分割表示できるようにして、より広い範囲をより詳細に見ることができるように変更した。さらに地図上の施設数も合計75地点まで拡充した。
ブログでの情報発信	催し物案内や、企画展の見どころ、日常業務などを、各担当者が写真付きでタイムリーにブログで発信した。 記事総数 34件（前年度34件）
インターネットによる新着情報発信	ホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物等の紹介を行った。 アクセス件数 47,052件（前年度47,274件） *Total Unique IPsの数値。ページビューは783,683

6 都市発展記念館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
都市発展記念館	施設の維持管理 所在地：中区日本大通12 ・主な修繕：圧縮機整備作業。湧水処理ポンプ交換工事等。

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	41件248点の寄贈を受け入れ、108件271点の資料を購入した。展示の観覧者から市電やY校野球部の関係資料の寄贈を受け入れ、展示開催をきっかけに所蔵資料を充実させた。職員を資料保存のための研修会に参加させ、文化財虫害対策などの資格を取得させた。	A
調査研究事業	予定していた調査研究については、予定どおり進捗することができた。加えて、開港資料館・市史資料室・都市発展記念館の3施設が共同で研究や資料整理などをおこない、今後の共同事業のあり方を考える体制を構築した。	A
常設展事業	観覧者数は3万3千人を超え、1日平均観覧者数も100人を超えた。無料観覧者が大部分を占めるものの、学校団体の受け入れも順調で、年間3万人の観覧者数を維持できるめどがたった。	A
企画普及事業	企画展示観覧者数は昨年度よりは減ったものの1万4千人を超えた。企画展示は開港との連携展示として開催したが、今後もこうした方針を継続する。また、開館10周年イベントや企画展示関連のギャラリーなどを活用したイベントも好評で、入館者数や知名度のアップにつながった。	A
情報事業	定期的なメールニュースの発行、ブログを利用した情報発信に加えて、HP上で公開している「横浜歴史情報デジタルマップ」等の画像データベースでも情報公開を継続した。HPへのアクセス数は目標30,000に対し、47,000を超え、ほぼ昨年度並みに達した。	A
施設維持事業	施設設備については、日常の維持管理を行った。階段天井部分にカビが発生したが、横浜市と連絡しながら適切に処置した。	B

Ⅶ ユーラシア文化館事業

昨年度は堅実な企画展に学校連携、集客イベントを加えた事業モデルによって過去最高の成果が得られましたが、今年度はこのモデルを踏襲しつつ、新たに他施設との連携や協力関係の強化をはかり事業を展開しました。

課題となっていたユーラシア概念の検討に関しては歴史博物館との共同研究を開始し、今年度の企画展「モンゴル～シベリアを歩く」にその成果の一部を反映させました。この方向性は次年度の特別展「遣唐使が運んだかたち（仮称）」につなげていきます。特別展「華麗なるインド神話の世界」では在日コミュニティの協力を得て国際性豊かな催しを展開するとともに、開港資料館と連携し横浜在住のインド人の歴史にも光をあてました。常設展示室の活性化策としては、年度内に8つのミニ展示を実施し、展示空間のマンネリ感の払拭に努めました。

都市発展記念館と連携し昨年度から始めた市内小学校4年生の学校団体対応は、年度当初から広報活動を展開し、昨年以上の来校数を得ました。また当館独自の学校対応の取り組みとして、小学2年生の国語科目で学習するモンゴル童話と関連付けて、ゲル（モンゴルの移動式住居）を活用した見学及び体験学習を実施しました。

歴史博物館の協力を得た市民ボランティアの活動も定着し、企画展会期中のワークショップや集客イベントでの館内活動に加え、当館が初めて参加した「よこはま国際交流フェスタ」などの館外イベントにまで活動の場を広げました。

昨年度整備した1階のフリースペース（ギャラリー、旧第一玄関）の活用は今年度から本格的に始まり、企画展関連ミニ展示や各種パネル展、絵画展、写真展、ミニコンサートやワークショップ、ユーラシア文化館・都市発展記念館専門職員の連続講座（月イチ講座）など多様な催しを実施しました。

以上の取り組みの結果、常設展観覧者数は31,270人（1日平均102人）、企画展観覧者数は15,005人（1日平均114人）、市内学校団体来館数は94校、7,825人（内小学校4年生79校6,934人）となり、いずれも目標値を超え、企画展観覧者数と市内学校団体来館数は過去最高の数値となりました

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

（1）資料収集・保存

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈 777点 寄託 0 点	主な収集資料：ベトナムのモン族の民族衣装および絵画、中国の現代絵画、フィリピンの吹矢筒、青銅鏡研究書等
資料の購入	0 点	主な収集資料：なし
資料熟覧	5 件	青銅製鍔等3点（韓国国立中央博物館および東京国立博物館研究者による資料調査）、楔形文字粘土板文書等6点（市民によるデザインの研究）ほか
文献資料熟覧	9 件	鏡関連研究書等（市民研究者）、 <i>Ars Asiatica</i> （クメール青銅美術研究者）ほか

資料の貸出	1 点	自鑪斤至烏斯蔵程站輿圖複製1点（東海大学研究者との共同研究のため）
収蔵資料の画像利用	5 点	青銅製鍔2点（『FUSUS』アジア鑄造技術史学会誌第5号）、カットガラス碗1点（『アカデミア世界史』浜島書店ほか中学生用教材）、円筒印章1点（藤沢市・藤沢市教育委員会主催企画展印刷物・展示パネル）、楔形文字粘土板文書1点（『ノートはともだち！』株式会社教育劇画）

（２）文献資料の整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
バジル・グレイ旧蔵書	書誌データの内容を確認した。 入力件数 606件
和図書	書誌データの入力を行い、OPAC 公開した。 入力件数 563件
雑誌	書誌データの入力を行った。 入力件数5653件

（３）資料収集実績

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族・歴史資料	0 (－)	0 (－)	19 (1,052)	0 (－)	19 (1,052)	4,700 (4,681)
図書	6 (15)	0 (－)	578 (117)	0 (－)	584 (132)	20,359 (19,775)
雑誌	3 (8)	0 (－)	180 (19)	0 (－)	183 (27)	7,983 (7,800)
電子資料	0 (－)	0 (－)	0 (1)	0 (－)	0 (1)	0 (17)
合 計	9 (23)	0 (－)	777 (1,189)	0 (－)	786 (1,212)	33,042 (32,273)

※（ ）内は、前年度点数。

（４）資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	資料保全のため、受贈した民族資料および書籍の二酸化炭素燻蒸を実施し、収蔵庫へ納めた。
環境検査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境検査を実施した。

（５）資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館収蔵庫（200 m ² ）	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵
外部倉庫（大黒ふ頭）	図書（江上文庫の重複本など）、販売用出版物などを収蔵

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号）

収集資料の整理、企画展や講演会の基礎的資料収集・調査研究を行いました。本年度から、東部ユーラシア世界に関する歴史博物館との共同研究も開始しました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
日本における「ユーラシア」の理解に関する研究（1／3年）	「ヨーロッパ」と「アジア」を合わせた「ユーラシア」という言葉を広め、理解を深めるため、戦前にモンゴル・シベリアで調査を行った研究者たちの「ユーラシア」概念を調査した。その成果を企画展で公開したほか、「東部ユーラシアの文化交流の研究」における研究会でも発表した。
東部ユーラシアの文化交流の研究（1／3年）	歴史博物館と連携し、共同研究会を実施。 歴史博物館学芸員の協力を得て、日本を含む東部ユーラシア諸地域についての調査研究成果を、今年度の企画展示の他、次年度の企画展計画に活かした。 歴史博物館との連携事業。
館蔵絵図の研究（2／2年）	当館所蔵絵図「自鑪序至烏斯蔵程站輿図」と類品との比較研究を行った。昨年度撮影した赤外写真を更に詳細に観察、その成果とともに絵図の特別公開を行った。 東海大学との共同研究。
インド精神文化の研究（1／1年）	インドの精神文化の核をなすヒンドゥーの世界観の探求をテーマに、日本では珍しい絵画・彫刻・工芸品を調査し、日本との接点も明らかにした。この研究成果は特別展で公開した。
横浜市内にあるユーラシア関連資料の調査・研究（2／5年）	横浜市民が保管するユーラシア関連資料について調査し、これまでに寄贈を受けた写真資料については、デジタルアーカイブズとして公開するための準備を行った。デジタルアーカイブズの公開は、サーバーの移行等年度当初に予定していなかった業務が生じたため、準備にとどまり公開は次年度に行うことにした。
遊牧世界の物質文化の研究（2／5年）	国内にある遊牧民の資料（考古資料・民族資料）について調査し、データを蓄積・企画展等で公開した。また館外の関連研究会に出席し、成果を発表した。
収蔵資料と関連資料の研究（2／5年）	当館収蔵資料及び関連施設所蔵のイスラーム資料に関する調査を行った。館外の関連研究会では、海外博物館での資料調査の報告をした。
メソポタミア楔形粘土板文書の研究（2／5年）	データベースに公開に向けてデータの修正を行い、完成した。粘土板文書のデジタル化について、その成果を紀要で公開した。ガラスビュー英語版の作成は準備中。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、収蔵資料の特別公開や、企画展と連動した展示替えを行いました。また、展示資料に関連するクイズを配布するなど、集客とサービスの向上を図りました。

(1) 常設展示室での実施事業

項 目	事 業 内 容
展示更新	・写真パネル展示「新しい都市の交通・L R T」を都市発展記念館特別展「横浜にチンチン電車が走った時代」の関連企画として開催（～2012/4/1）。 ・ユーラシア風景写真展「ユーラシアの海」を都市発展記念館企画展「横浜の海 七面相 大正昭和編」の関連企画として開催（4/28～6/24） ・特別公開「フィリピンの土器」を開催（6/26～7/26）。会期中の観覧者数 2082 人（77 人/1 日） ・館蔵資料への興味を喚起するため、常設展で公開中の資料に関する「クロスワードパズル」を作成・配布（6 月～） ・東京で開催された大英博物館古代エジプト展に関連し、館蔵の古代エジプト資料を特別公開した（8/11～22） ・インド展の一環として「魅惑のクメール青銅美術展」を開催し、インドヒンドゥー芸術の東南アジアへの伝播と独自の展開を紹介した。世界的に希少なクメール青銅器のまとまった展示は日本初（9/26～1/14）。 ・特別公開「自鎗庁至烏斯蔵程站輿図」実施（12/11・24。）会期中の入館者数 1696 人。作品解説実施（参加者 12/22 11 名、12/23 18 名。） ・写真パネル展「マルコ・ポーロが見た東アジア」（1/26～2013/4/25）フォトヨコハマ 2013 の連携展示として開催。

(2) 常設展示観覧者の推移（目標数 30,000 人）

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1 日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
2 4 年度	637	277	914	30,356	31,270	95.4%	307 日	102
2 3 年度	10,401	981	11,382	21,371	32,753	272.7%	306 日	107
2 2 年度	6,003	844	6,847	5,162	12,009	115.8%	304 日	40

4 企画普及事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

今年度は「ユーラシアとは何か？」という原点のテーマに立ち返り、ユーラシアと日本・横浜との繋がりや対比を意識して、各企画展内容の見直しから始めました。また、**都市発展記念館と二施設一体となって市内学校団体受入や、市民ボランティアの活用によるワークショップの充実、外国人コミュニティの協力による各種催しを実施**しました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「モンゴル～シベリアを歩く」 H24. 7. 28（土）～ 9. 23（日） 会期 58 日	一般 300円 小中 150円	5,244人 （目標数 5,000 人） 1 日あたり 104人	日本・モンゴル外交関係樹立 40 周年記念し、モンゴルからシベリアに至る地域の文化を紹介した。鳥居龍蔵・江上波夫の調査を中心に、考古学的・民族学的資料等を展示。市民団体と協力して夏祭り、コンサート、ミニ講座等を実施した。 ①展覧会図録の出版

			定価：700 円、販売冊数：217 冊 ②夏祭り 当日の入館者 1,577 人（2 日間） 夏祭り中の関連企画参加者 馬頭琴コンサート・ワークショップ：85 人 モンゴル舞踏：74 人 モンゴル童話お話し会：66 人 モンゴルの遊び：131 人 ③ミニ講座講座（2 日間） 参加者：50 人 ④ギャラリートーク 5 回実施 参加者：82 人 ボランティア活動延べ人数 57 人
特別展「華麗なるインド神話の世界―神々が結ぶインドと日本―」 H24. 10. 6(土)～ H25. 1. 14(月・祝) 会期 101 日	一般 300円 小中 150円	9,732人 (目標数 8,000 人) 1 日あたり 120 人	日印国交 60 周年記念事業の一環としてインドの精神文化の核をなすヒンドゥーの世界観をテーマに、日本では珍しい絵画・彫刻・工芸品を紹介。日本文化との接点も明らかにした。 ①「ヒンドゥーの神話ガイド」を作成・配布。 ②ギャラリートーク 9 回実施 参加者：316 人 ③『横浜におけるインド人のあゆみ』展を 1 階ギャラリーにて開催（開港資料館との連携） ④「flicker～ゆらめきⅢ～印度 川島寿美恵写真展」を旧第一玄関にて開催 ⑤インド体験コーナー 民族衣装・インド工芸 参加者 1,066 人（活動ボランティアとの連携） ⑥ヒンドゥー神話講演会（11/11）参加者 48 人 ⑦インド舞踊とワークショップ(11/10)参加者 102 人 ⑧インド音楽コンサート(12/1) 参加者 96 人 ボランティア活動延べ人数 177 人
企画展基礎調査			来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。



夏祭りイベント（馬頭琴コンサート）



展示解説

(2) 企画展示室観覧者の推移 (目標数 13,000 人)

	有料入館者 (人)	無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1 日平均 入館者 (人)
24 年度	3,944	11,061	15,005	105.7%	131	114
23 年度	3,566	10,619	14,185	362.2%	138	103
22 年度	1,902	2,014	3,916	132.2%	124	32

※ユーラシア文化館と都市発展記念館は企画展示室を共用しており、ユーラシア文化館は、22・23・24 年度は2回の企画展示を開催しました。

(3) 講座・講演会

項 目	参加者数	内 容
企画展に関連した講座	50 人	企画展「モンゴル～シベリアを歩く一鳥居・江上の大陸探検一」関連連続講座を開催 (8/18, 19)
特別展に関連した講演会	48 人	特別展「華麗なるインド神話の世界―神々が結ぶインドと日本―」関連特別講演会を開催 (11/11)
月イチ講座の開催	50 人	都市発展記念館と連携し、当日受付で気軽に参加できる講座を月に一回開催 第4回「世界最古の文字記録―楔形文字粘土板文書」(1/19) 第5回「館蔵中国北方系青銅器」(2/23) 第6回「館蔵品に探す東西交流」(3/30)

(4) 開館10周年感謝イベントの実施

事業名称	参加者数	事 業 内 容
開館10周年感謝イベントの開催 H24.3.9 (土)・10 (日) 全2日間	3,514人	開館10周年を記念して感謝イベント実施 (3/9～10) 参加者 3,514 人 (都市発展記念館との共催) 市民ボランティアや市民グループの協力を得た。 ・常設展・特別展の無料開放 ・開館10周年記念パネル展「10 周年のあゆみ」を事務室前廊下壁・旧第一玄関で開催 (2/21～) ・開館10周年感謝イベントの一環として中庭ゲル展示公開 (3/2～3/10) ・開館10周年感謝イベントの一環として中庭アート作品「はなおくり」を展示 (3/3～3/31)

(5) 普及啓発

項 目	参加者数	事 業 内 容
企画展・常設展関連アート&グルメ	25 人	横浜中華街の店舗とのタイアップ企画。展示と食文化を連携させた広報で相乗効果を図った。
フランス月間への参加		・フランス月間関連写真パネル展「世界遺産でたどるフ

H24. 6. 2 (土) ～7. 27 (水)		ランスの歴史」(6/2～7/27) を、1階ギャラリーおよび旧第一玄関で開催した。
「子どもアドベンチャー2012」の開催 H24. 8. 22 (水) ・23 (木) 全2日間	24人	・子どもアドベンチャー2012の実施(8/22、23) 市内小中学生を対象に1日職業体験を実施した。 展示解説体験や出土煉瓦の水洗い、受付体験、バックヤードツアーなどを実施した。
「ミュージアム・クイズラリーよこはま2012」への参加 H24. 7. 20 (金) ～8. 31 (金)	200人	子ども向け夏休み企画として、神奈川県立歴史博物館を中心に関内・山手地区の博物館施設15館で実施した。 同時に、都市発展記念館・新聞博物館・放送ライブラリー・シルク博物館と連携して、各施設を巡るツアーも開催した(8/29)。
大英博物館古代エジプト展 関連講演会 H24. 8. 12	200人	東京で開催された大英博物館古代エジプト展に関連し、講演会を主催した(情報文化センター情文ホール)。
夏休みミニワークショップ H24. 7. 28, 29, 8. 4, 5, 11, 12 全6日間	355人	市民ボランティアの協力を得て、古代のコイン作り、ユーラシア各地の民族衣装の試着等のワークショップを行った。
夏まつり H24. 8. 25(土) ・26 (日)	1, 577人	都市発展記念館と連携し、全館無料の「夏まつり」を開催。市民ボランティア・市民グループの協力を得てイベント・ワークショップを実施した(参加者1, 326人)。
よこはま国際フェスタ2012 H24. 10. 20(土) ・21 (日)	642人	よこはま国際フェスタ2012に参加し、ワークショップ・民族衣装試着体験など実施(参加者642人) 市民ボランティアの協力を得た。



子どもアドベンチャー



ゲル組立ワークショップ

(6) 学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内学校団体見学の受入	小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」(関外地区の発展)をテーマに、 職員による解説と体験メニューを実施 した。 94校 7, 825人(うち、小学校4年生 79校 6, 934人)

教員向け研修の実施	財団エデュケーターと、吉田新田の学習をはじめ、横浜の歴史をテーマとする教員向け研修を実施した。
学芸員実習の受け入れ	11名の学生を受け入れた。企画展準備や実習により、学芸員の仕事について総合的な理解を深めると同時に、当館イベントスタッフとして活躍した。
インターンの受け入れ	2名の学生を受け入れた。当館イベントやワークショップのスタッフとして職業体験を行った。
職業体験の受け入れ	小中学生の1日職業体験（子どもアドベンチャー・前述）及び中学生を中心とした職業体験の受け入れを行った。中学生については合計で3校11名を受け入れた。



市内小学校団体見学



職業体験

（7）市民協働事業

項 目	事 業 内 容
市民ボランティアによるワークショップの実施	歴史博物館の協力を得て、歴史博物館活動支援ボランティアによる当館でのワークショップを実施した。 ・モンゴル・シベリア体験コーナー のべ活動人数 57人 ・ゲル組立ワークショップ のべ活動人数 28人 ・インド体験コーナー のべ活動人数 167人 ・10周年感謝イベント のべ活動人数 31人 計 283人

（8）広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	都市発展記念館・ユーラシア文化館個々で作成していた館紹介リーフレットと半期ごとの催し物案内を、大きく見やすいものに統合した。また、企画展チラシだけでは発信しきれないイベント情報を別刷りの自主製作チラシで作成し、配布先の見直しを図りながら、定期的に配布した。館報については、継続して配布した。 ・横浜ユーラシア文化館催し物案内（館案内リーフレット） ・企画展示ポスター・チラシ ・館報『News From EurAsia』第17・18号（各10,000部）

	・横浜ユーラシア文化館紀要 第1号を発行（1,000部、3/31）
優待カードの発行	年間パス「E Aハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円
その他広報	横浜市を通じての記者発表 市内学校・公共施設へのチラシ配布 日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信 テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入 市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR 近隣へのダイレクトメール発送

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
簡易検索端末・文献検索端末	資料：常設展示室に設置された端末で主な展示資料の検索が可能。
	文献：館蔵文献の OPAC を公開することで、館外からのインターネット検索を可能にした。
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。 アクセス件数 合計66,068件（前年度66,850件）

6 ユーラシア文化館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
ユーラシア文化館	施設の維持管理 ・主な修繕：圧縮機整備作業。湧水処理ポンプ交換工事等。

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料収集及び整理は予定どおり進捗しました。整理が終わった文献資料については、成果として、HPやOPACを通じて公表しました。	B
調査研究事業	計画していた調査研究については、予定どおり進捗することができました。 歴史博物館との共同研究会を実施しました。	A
常設展事業	常設コーナー展については、昨年度に引き続き都市発展記念館企画展や学校カリキュラムとの連携を行うことで、企画展開催期間ではない時期についても、集客を図ることができました。観覧者数は前年同様目標を30,000人と設定。 目標数の104%超となりましたが、対前年比としては95.4%にとどまりました。	A
企画普及事業	今年度も、都市発展記念館と一体となって、市内学校団体受入や、市民ボランティアの活用によるワークショップの充実、市民グループや外国人コミュニティなどの協力による各種催しの実施など、数々の事業を展開しました。その成果と企画展等の内容充実によって、 企画展・特別展観覧者数と市内学校団体来校数については、過去最高の数値となりました。	A
情報事業	定期的なメールニュースの発行、HPを利用した情報発信に加えて、イベントごとに追加でチラシを作成・配布するなどタイムリーな広報に努めました。HPへのアクセス数は目標65,000件に対し66,068件で目標値を上回りましたが、対前年度比としては98.8%にとどまりました。	B
施設維持事業	施設設備については、経年劣化した設備の修繕・交換と日常の維持管理を行いました。ガラス壁面や屋根の破損、防犯カメラや消防設備の経年劣化についても監視を続けながら、長寿命化を図っています。	B

VIII 三殿台考古館事業

国指定史跡である三殿台遺跡への理解を一層深めるとともに、施設の特徴を発揮し、地域や市民により親しまれる施設を目指し、各種事業に取り組みました。

資料収集保管事業では、整理ボランティアによる出土品基礎整理を継続しました。三殿台遺跡収蔵の写真資料をスキャンし、デジタル化するとともにインデックスの作成を継続しました。また、三殿台遺跡及び周辺遺跡以外の遺跡から出土した収蔵資料について順次埋蔵文化財センターへ移動しています。岡村小学校所蔵の遺物について、創立 50 周年を機に整理を行いました。

常設展事業では、職員による学校団体などへの展示室の解説を行うとともに、4・12 月に展示室を一部更新しました。住居跡保護棟の維持管理を適切に行いました。

企画普及事業として、リーフレットを新たに作成し、配布しました。火起こし、勾玉作り、土偶作り、土器作り、石器作り、勾玉・拓本教室、キャンプ in 三殿台、古代人体験を継続実施しました。学校や地域住民、区・市が行う行事への職員派遣・協力を積極的に行い、連携を図りました。ホームページを定期的に更新し、周知に努めました。

市民協働事業として、市民ボランティアスタッフによる収蔵遺物の再整理を行うとともに、ボランティアによる常設展示・遺跡のガイドを継続実施しました。

展示事業として 7 月に開館 45 周年記念パネル展示「今と昔の三殿台」、8 月に世界遺産関連パネル展示「横浜から世界遺産を」、9 月に磯子図書館との共催パネル展示「ご近所のお宝！ 国指定史跡 三殿台遺跡」、10 月に岡村小学校創立 50 年記念展示の一部に岡村小学校所蔵の土器や石器、貝などを展示するなど、積極的に活動しました。

缶バッジ・土器片ペンダントを製作し、販売しました。

管理運営面では、事務棟・展示棟・住居跡保護棟・復元住居・擬木標示遺構の維持管理を適切に実施しました。

これらの事業、特に周年事業を通して施設の有効利用と認知度・顧客満足度が高まったものの、来館者数は 15,409 人と、目標 17,500 人の 88.05%、前年度比 99.8%となりました。今後もさまざまな工夫をし、市民サービスの向上、他施設・近隣学校などとの連携や市民協働による普及活動を継続していきます。

1 資料収集保管事業・調査研究事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号）

保管資料について整理・分類・デジタルデータ化等を行い、資料の保全を図りました。

（1）保管資料再整備事業

項 目	事 業 内 容
出土品保管再整備事業	東原遺跡：収納箱 3 箱、朝光寺原遺跡：収納箱（#32）1 箱・収納箱（#64）1 箱、折本西原遺跡：収納箱（#32）1 箱、収納箱（#64）8 箱、獅子ヶ谷出土遺物：収納箱（No.32）4 箱、収納箱（No.64）12 箱、木箱 45 箱分、三ツ沢貝塚：収納箱（No.32）3 箱、（No.64）、三ツ沢貝塚出土遺物（貝・骨）を埋蔵文化財センターへ移動。
記録資料のデジタルデータ化事業	三殿台考古館保管写真資料等のデジタルデータ化を継続（計約 135.2GB）。デジタルデータ化した資料については順次索引作成。

図書資料の受入れ	寄贈された図書を整理分類し、145冊の受入れを行った。
(2) 調査研究事業	
項 目	事 業 内 容
三殿台遺跡出土品の資料化	東貝塚の獣・魚骨の分類作業を継続（中村若枝氏に依頼）。 東貝塚出土資料のデータ化 遺物収納箱 1 箱実施。 その他出土資料のデータ化 遺物収納箱 23 箱実施。 北側貝塚出土資料のデータ化 遺物収納箱 17 箱実施。 北側貝塚出土土器実測図の整理・データ化。 北側貝塚出土資料化遺物の注記・ニス塗り 収納袋 3 袋 収納箱 8.5 箱実施。 北側貝塚注記一覧の作成。 収蔵庫収納資料台帳の作成を実施。
三殿台考古館収蔵資料の活用	三殿台遺跡発掘調査の映像資料（DVD）を小学校団体見学の事前学習用に貸し出した。また、東京都埋蔵文化財センターの事業に協力して、同資料の貸し出しを行った。 磯子図書館との共催展示（「ご近所のお宝！ 国指定史跡 三殿台遺跡」）において、収蔵資料を磯子図書館へ展示（9月20日～10月8日）。
岡村小学校創立 50 周年に伴う、学校所蔵資料の整理・活用	岡村小学校所蔵の貝種のデータ化 岡村小学校所蔵の貝、獣・魚骨の種の同定作業を依頼（中村若枝氏に依頼）。 岡村小学校所蔵の土器・石器を水洗。 岡村小学校所蔵の土器・石器の注記・接合作業。 整理した遺物を岡村小学校内に創立 50 周年を記念して展示（10月15日～11月10日）。



磯子図書館共催展示



岡村小学校での展示

2 常設展事業（定款第4条第1項第1号）

常設展示室の維持管理を行うとともに、4月・12月に展示内容の更新を行いました。また、団体および一般来館者見学時に、遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚について展示解説を行いました。

(1) 常設展示の維持管理と展示内容の充実

項 目	事 業 内 容
遺跡案内・展示解説の実施	団体および一般来館者見学時に、遺跡・住居跡保護棟・復元住居・展示室・北側貝塚について展示解説を行った。
常設展示の維持・管理、展示更新の実施	4・12月の2回、展示更新を行った。

(2) 住居跡保護棟の適切な保全

項 目	事 業 内 容
住居跡保護棟のメンテナンス等	2か月に1回程度住居跡保護棟のメンテナンスを委託した。 4月21日、住居跡保護棟の窓ガラス8枚に低反射フィルム貼付工を実施し、反射による内部の観察障害を軽減した（3年間の実績：24/72枚）。

(3) 管理事務所2階の活用

項 目	事 業 内 容
管理事務所2階の活用	管理事務所の2階を体験学習室とし、記録資料の保管、遺物整理作業の場としても活用している。



保護棟内竪穴住居点検の様子



低反射フィルム貼り付けの様子

3 企画普及事業（定款第4条第1項第2号）

開館45周年事業として、7月にパネル展示「今と昔の三殿台」、8月に世界遺産関連パネル展示「横浜から世界遺産を」、9月に磯子図書館との共催パネル展示「ご近所のお宝！ 国指定史跡 三殿台遺跡」（前出）、10月に岡村小学校創立50年記念展示の一部に岡村小学校所蔵の土器や石器、貝殻などを展示（前出）するなど、積極的に活動しました。

市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるように、展示解説や体験学習を開催し生涯学習活動を支援しました。また、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。

(1) 企画普及事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
リーフレット作成・配布		リーフレットを新たに作成し、関係各所へ配布した。
「いそびゴールデンウィークスタンプラリー」への参加	28人	4月25日から5月6日にかけて「いそびゴールデンウィーク2012スタンプラリー」が行われ、いそびが来館した（5月5日）。景品（缶バッジ）を交換した人数11人。 スタンプラリーに合わせてゴールデンウィーク体験教室を

		開催した。 参加者44人
「子どもアドベンチャー2012」への参加	16 人	「子どもアドベンチャー2012」に参加しました（8月23日）。開館45周年を記念して体験は無料で受け付けた。 午前の火起こしは小学生11人 午後の拓本とりは小学生3人、大人2人
三殿台遺跡整理ボランティア	809 人	収蔵資料の水洗・注記を遺物収納箱115箱行った。 4月22日に遺物整理ボランティア研修を行い、17人が参加した。三殿台遺跡の発掘調査の映像を観た後に基礎的な遺物整理について、研修を行った。 6月23、24日に埋蔵文化財センターと連携して、ボランティア研修として体験発掘を行った。延べ43人が参加した。 10月20日に遺物整理ボランティアの整理作業への理解を深めるために、土器の接合研修を行い14人が参加した。
三殿台遺跡ガイドボランティア	89 人	遺跡ガイドボランティアは年間1,356人ガイドした。 遺跡ガイドボランティア研修を4月21日に行い、3人参加した。三殿台遺跡の発掘調査の映像を観た後に、遺跡・展示室でガイドボランティアマニュアルをもとに展示内容の確認とガイドの方法について研修を行った。 10月21日に遺跡ガイドボランティアのガイド技術の向上のため研修を行った。3人が参加し、ガイド内容の確認と共有、質問への対処などを検討した。
学校見学の受け入れ	2,767 人	年間を通じて、小・中・高・大学の受け入れを行い、50団体が見学した。
職業体験、館務実習の受け入れ	3 人	8月4～7日、22～24日、館務実習生を1人受け入れた。 2月5日、岡村中学校の職業体験として2人を受け入れた。



勾玉作り教室といそっぴ



子どもアドベンチャー



ボランティア研修 体験発掘

クラブ活動・総合的な学習・サマースクール等への支援		5月28日に市立大岡小学校の「まち探検」を受け入れた。 6月12・19日、9月18・25日、10月16・23日、11月20・27日に市立岡村小学校の地域交流クラブに講師として参加した。 火起こし（@100）・石器作り（@300）・勾玉作り（@300） 各9人 売り上げ6,300円
---------------------------	--	---

		7月27日に市立岡村中学校生が校外活動のため来館。館内の写真撮影をし、「文書デザインコンテスト」（日本情報処理検定協会開催）へ応募するため、館内の写真撮影をした。 7月26・27日に市立上大岡小学校のサマースクールに勾玉作り教室の講師として参加した。 勾玉作り（@300）63人 売上げ18,900円 7月31日に市立磯子小学校のサマースクールに火起こし教室の講師として参加した。 火起こし（@100）18人 売上げ1,800円 1月11日に横浜英和小学校の5年生が、NHKの放送体験プログラムの題材として三殿台取材した。
ホームページの運営		月一回程度ホームページを更新し、体験学習の情報等を更新した。
その他広報		（ア）体験学習の案内チラシを年3回程度作成し、磯子区・南区内の施設、小・中学校を中心に配布した。 新たに作成したリーフレットを、学校見学数増加のために市外、藤沢・鎌倉・逗子・葉山・横須賀の5市町の小学校へ配布した。 （イ）プラネット神奈川や横浜カレンダーに情報提供をした。 （ウ・エ）民間への情報提供は16件行った。うち、1回テレビで、3回タウン誌で取り上げられた。

（2）体験学習事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
体験学習の実施	516人	（ア）ゴールデンウィーク体験教室 5月3～6日 3日：火起こし教室 荒天により中止 4日：拓本とり教室（@100）7人 売上げ700円 5日：勾玉作り教室（@300）25人 売上げ7,500円 6日：石器作り教室（@300）12人 売上げ3,600円
		（イ）キャンプ in 三殿台 7月21・22日：（@2,000）2家族7人 売上げ4,000円 9月10・11日：（@2,000）2家族8人 売上げ4,000円
		（ウ）夏休み体験教室 ①土偶作り教室（@300） 7月15・16日 1回目：8人 売上げ2,400円、2回目：13人 売上げ3,900円 ②勾玉作り教室（@300） 7月26日、8月5・15・24日 1回目：19人 売上げ5,700円、2回目：17人売上げ5,100円、3回目：22人売上げ6,600円、4回目：19人 売上げ

		5,700 円 ③火起こし教室 (@100) 7 月 27 日、8 月 4・13 日 1 回目：5 人 売上げ 500 円、2 回目：5 人 売上げ 500 円、 3 回目：11 人 売上げ 1,100 円 ④土器作り教室 (@500) 8 月 2 日 10 人 売上げ 5,000 円 土偶・土器作り野焼き 8 月 26 日 53 人 ⑤拓本とり教室 (@100) 8 月 6・14・28 日 1 回目：2 人 売上げ 200 円、2 回目：2 人 売上げ 200 円、 3 回目：2 人 売上げ 200 円 ⑥石器作り教室は、参加者 0 のため中止 8 月 29 日
		(エ) 土器作り教室 ①第 1 回 (@2,000) 9 月 23・30 日、10 月 4・7・11 日、 11 月 10 日 4 人 粘土 1 kg (@300) 15 kg 売上げ 12,500 円 延べ参 加人数 20 人 ②第 2 回 (@2,000) 1 月 13・20・27 日、3 月 3 日 7 人 売上げ 14,000 円 粘土 (@300) 24 kg 売上げ 7,200 円 延べ参加人数 28 人
		(オ) 古代人体験教室 (@500) 10 月 14 日 3 家族 9 人 売上げ 1,500 円
		(カ) 石器作り教室 (@300) 10 月 28 日、2 月 24 日 1 回目：2 人 売上げ 600 円 2 回目：8 人 売上げ 2,400 円
		(キ) 勾玉作り・拓本取り教室 (@400) 12 月 16 日 3 人 売上げ 1,200 円
		(ク) 随時実施の火起こし・勾玉作り 火起こし (@100)：128 人 売上げ 12,800 円 勾玉作り (@300)：62 人 売上げ 18,600 円 石器作り (@300)：9 人 売上げ 2,700 円 うち、地域や施設と連携して行ったもの ①滝頭コミュニティーハウスの自主事業「父の日プレゼント 勾玉キーホルダーをおとうさんに贈ろう！」に協賛し、勾玉 作りを三殿台考古館にて開催した。 25 人 ②西区北軽井沢子ども会の「夏休み花火大会」に火起こし教 室の講師として参加した。 7 月 30 日 32 人 ③本町小学校放課後キッズクラブの石器作りを行った。 3 月 23 日 9 人



石器作り教室



秋の土器作り教室 野焼き



古代人体験

(3) 展示事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
展示室の維持管理と展示更新		展示室の維持管理に努め、4・12月と展示室の更新作業を行った。
展示解説の実施	4,468人	来館者に分かりやすく展示解説を実施した。
鎌倉世界遺産広報パネル展の開催	858人	パネル展示「横浜から世界遺産を」を開催し、終了した(8月6日～30日)。パンフレットを60枚配布した。
開館45周年記念展示・行事を開催した。		①開館45周年記念パネル展示「今と昔の三殿台」を開催した(7月6日～31日)。作成したパンフレットを約100枚配布した。677人 ②磯子図書館にて、三殿台考古館開館45周年記念共催パネル展示「ご近所のお宝! 国指定史跡 三殿台遺跡」(9月20日～10月8日)を行った。いそご祭りや展示最終日にあわせて、磯子図書館で来館者への展示解説を行った(9月30日、10月8日)。期間中、当館リーフレットを約300枚配布した。磯子図書館側で計算した観覧者数は880人。 ③開館45周年事業の一環として、開館時間を延長して、「ダイヤモンド富士」の観察会を行った(9月26日～10月1日、3月13～17日)。延べ参加者数36人、期間中2日間(3月15・16日)で比較的良好に観察できた。
岡村小学校創立50周年記念展示への協力		市立岡村小学校にて、創立50周年記念展示が行われ、岡村小学校所蔵の遺物を整理し、展示した(10月15日～11月10日)。
土器作り教室作品展	1,594人 (会期中の入館者数)	秋の土器作り教室作品展を展示室にて開催した(11月19日～12月2日)。761人 冬の土器作り教室作品展を展示室にて開催した(3月9日～24日)。833人



開館 45 周年記念パネル展



ダイヤモンド富士

(4) グッズ製作事業

項 目	事 業 内 容
缶バッジの制作・販売	記念品缶バッジの作成及び販売 1, 0 0 0 個作成 販売価格 1 個 1 0 0 円、 発掘 50 周年記念の缶バッジセット・第7・8弾を発売した。 2 4 年度売上げ 1, 0 0 4 個 1 0 0, 4 0 0 円
土器片ペンダントの制作・販売	土器片ペンダントの販売 販売価格 1 個 7 0 0 円 2 4 年度売上 5 個 3, 5 0 0 円

4 三殿台考古館施設維持事業（定款第 4 条第 1 項第 3 号）

三殿台考古館の諸施設を日々管理し、適切に維持するとともに来館者に不快感を与えないよう運営しました。

(1) 三殿台考古館の管理

管理対象施設等	事業内容・所在地など
経常的な維持・管理	事務棟管理 所在地：磯子区岡村四丁目 国指定史跡「三殿台遺跡」の管理 展示棟・竪穴住居保護棟・復元住居・遺構表示用擬木の維持管理。遺跡内草刈り、植栽剪定
開館時間の拡大	平成 24 年度も午前 9 時から開館し、4 月～9 月は午後 5 時まで、 10 月～3 月は午後 4 時まで開館した。 職員の施設内の定期的な巡回などの危機管理対策を実施した。

(2) 三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移

項 目	平成 2 4 年度	平成 2 3 年度	平成 2 2 年度
自動販売機売り上げ（円）	3 2, 6 9 2	4 0, 3 1 8	3 8, 7 8 0

(3) 三殿台考古館施設入場者の推移（目標数 17,500 人）

項 目	平成 2 4 年度	平成 2 3 年度	平成 2 2 年度
三殿台考古館施設入場者（人）	1 5, 4 0 9	1 5, 4 3 9	1 6, 2 2 3

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集・保管事業	資料収集保管事業では、整理ボランティアによる出土品基礎整理、収蔵写真資料のデジタルデータ化、三殿台遺跡周辺貝塚などの出土資料のデータ化を継続しました。また、三殿台遺跡及び周辺遺跡以外の遺跡から出土した収蔵資料について、埋蔵文化財センターへの移動を継続しました。 岡村小学校創立 50 周年に伴う、学校所蔵資料の整理・活用を行いました。	B
常設展事業	常設展事業では、職員による学校団体・一般団体・その他来館者へ遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚について展示解説を実施しました。また、4・12 月に展示内容の更新を行いました。来館者数は 15,409 人であり、目標 17,500 人の 88.05%、前年度比 99.8%となりました。	C
企画普及事業	開館 45 周年事業として、7 月にパネル展示「今と昔の三殿台」、8 月に世界遺産関連パネル展示「横浜から世界遺産を」、9 月に磯子図書館との共催パネル展示「ご近所のお宝！ 国指定史跡三殿台遺跡」、10 月に岡村小学校創立 50 年記念展示の一部に岡村小学校所蔵の出土品などを展示するなど、積極的に活動しました。 市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるように、展示解説や体験学習を開催し生涯学習活動を支援しました。また、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。 遺物整理ボランティアは延べ 809 人が参加しました。遺跡ガイドボランティアは延べ 89 人が参加し、1,356 人をガイドしました。活動参加者延べ人数目標 600 人の 149.6%を達成しました。	B
施設維持事業	遺跡内の事務棟・展示棟・竪穴住居址保護棟・復元住居・遺構表示擬木、芝生・樹木等の維持管理を適切に行いました。日常清掃・芝生の刈り込みや、トイレ清掃等については職員が行うなど経費の節減に努めました。自動販売機等の売り上げは前年度比 81.8%になりました。	C

収 益 事 業

財団の自主性・自立性を高めるため、収益事業を実施しました。

歴史博物館、開港資料館、都市発展記念館、ユーラシア文化館の各施設へ来館されるお客様により快適にお過ごしいただけるよう、ミュージアムショップ商品の見直しや特別セールの実施、自動販売機の設置などの事業を行いました。

今後はミュージアムショップ事業のさらなる魅力向上に積極的に取り組み、運営の効率化と収益の向上に努めていきます。

I 歴史博物館収益事業

1 歴史博物館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

- ① 勾玉キット、火打石、絵葉書、ミニタオル、企画展図録等を販売した。
- ② 企画展・イベントにあわせた商品をそろえ、開館記念日の特別セールを実施した。
- ③ オリジナル商品を開発した。

（2）来館者駐車場の経営

（3）自動販売機（5台）の設置

II 開港資料館収益事業

1 開港資料館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

- ① 絵はがき、バンダナ、ミニタオル、関連書籍等を販売し、売れ筋商品（書籍や絵はがき）の増刷をした。また、展示に合わせた絵はがきセットやオリジナル新商品のボールペン・シャープペンを作成した。

- ② 開港（開館）記念日にセールを実施した。

（2）自動販売機（1台）の設置

（3）喫茶室の委託

来館者サービスとして附属棟において、喫茶室の営業を実施した。

店名：Au jardin de Perry（ペリーの庭で）

III 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業

1 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

- ① オリジナル商品として、各企画展図録や刊行物のほか、地図・絵葉書・メモ帳・DVD・クリアファイルなどを販売した。また新製品としては「こぶちゃん飴」の新しい味のものや、ボールペン、缶バッジ等の新しい柄のものを作成した。

② 委託商品の販売

各企画展やフランス月間などのイベントに合わせ、商品のラインナップを大幅に変えることで、売れ筋の商品を陳列した。

(2) 自動販売機（１台）の設置

＜各事業の推移＞

(1) ミュージアムショップ売上の推移

項 目	平成２４年度	平成２３年度	平成２２年度
横浜市歴史博物館（千円）	８，０９７	７，０８２	７，９００
横浜開港資料館（千円）	５，２０２	６，１２９	６，１９６
横浜都市発展記念館 横浜ユーラシア文化館（千円）	６，５６０	９，１２０	５，４４７

(2) 駐車場の経営

歴史博物館の来館者用駐車場を経営しました。（館内３２台、屋外１４０台）

項 目	平成２４年度	平成２３年度	平成２２年度
利 用 台 数（台）	５，８０８	５，９５５	５，７８１
月あたり利用台数（台/月）	４８４	４９６	４８２
料 金 収 入（千円）	２，３６５	２，３３６	２，３９７

(3) 自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、各館に自動販売機を設置しました。

項 目	平成２４年度	平成２３年度	平成２２年度
横浜市歴史博物館（千円）	３６０	３４７	３８６
横浜開港資料館（千円）	９６	９６	９７
横浜都市発展記念館 横浜ユーラシア文化館（千円）	７７	７８	７７

(4) 喫茶室の委託

施設利用者の利便を図るため、開港資料館附属棟において、喫茶室を営業しました。

項 目	平成２４年度	平成２３年度	平成２２年度
喫茶室委託料収入（千円）	１，７９２	１，７６１	１，８９６

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
歴史博物館事業	ショップ売上は前年度比 114%と増収を達成した。はにわクリアファイル等の新商品を投入した。駐車場収入も、周辺にコインパーキングが増え、状況が厳しさを増す中で前年度比 101%と健闘した。収入予算に対してはショップ 86%、駐車場 59%であった。	C
開港資料館事業	事業収入は前年度の 89%に留まったが、今年度当初収入予算に対しては 106%に達した。ショップ事業では残部数の少ない売れ筋商品を増刷するなど、収入向上策をはかった。	B
都市発展記念館・ユーラシア文化館事業	前年比は 71%だったが、目標値に対しては 109%の収入があった。前年は企画展関係の図録の販売が好調だったが、今年度は企画展の内容から図録の作成ができなかったことなどが影響したものと思われる。	B

平成 24 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」がありませんので作成しません。

平成 25 年 6 月

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団